茶之湯評林大成

三

433

茶湯評林巻之三目録

大ぶくの習四ヶ条
大ぶく三方荘の圖
廣座敷大福の薄茶點　付　大ぶく圖
鎖懸小休臺子薄茶手前
自在懸栖楼棚薄茶手前
四疊半切及滝二重勝手茶釣の荘
四疊半切逆勝手草の荘
逆勝手小休臺薄茶手前
逆勝手袋棚二重の薄茶手前

197
.E5
7040

逆勝手風炉棚釣茶入荘濃茶手前

四畳半逆勝手ニ棚井楼棚釣茶入荘

三畳大目逆勝手ニ薄茶手前

二畳大切逆勝手ニ薄茶手前

茶湯評林巻之三

大炉之習

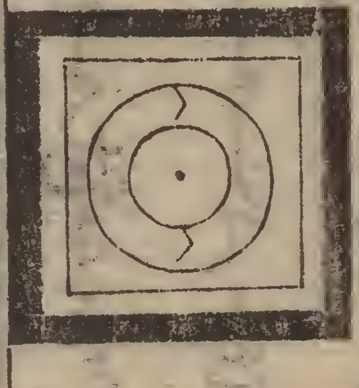
一新たなる炉ハ元旦ニハ先貴方ニ向ひ再拝し次ニ大炉く
を結ふべし破暁ニ貴方へ向ひ若水を汲釜を内外よく
洗ひ若水ニて能濯ぎ入釜の外を巾ひ炉ニ炭をおき新なる
火を打下すを乞ふへおくべし其内釜を巾ひ新らしき衣服を
着し上下をき先宝らいニ向ひあらひ粟昆布をい
たゞき自身ニて大ぶくを點べし其身の身代ニ依て
茶道ニ點させ候事もあり時宜ニ依べし
一水指ニハ清向ニ三方を飾るべし たゞニ器ニ棗を入

茶ハ別儀たるべし又極上を挽すりも候ひもしかる
べし是も前代ハ信濃梅ハ梅ぼしをとり花入ニ一家の
面々あもてとすべし
一朔日あくし三日三日あくも別して念比なる人々をあくとし
指人あくともよぶべし昼あくとも夜会するとも借り濃淡之此時も
三方の文字飾をしけ簾あく知べし濃茶ハ初むらし一般白大白
あとし一煎之薄茶ハ別儀たるべし
一三方に紅梅二色をおきあらしと茶壺と打せべし奉書を敷
おくべし小茶碗に小梅干を入茶入を包ミ濃茶ハ袋入大海か丸
壺吉薄茶入ハあまき絵の棗なるべし食籠ハ蒸昆布南らあれ

廣座敷大福茶點

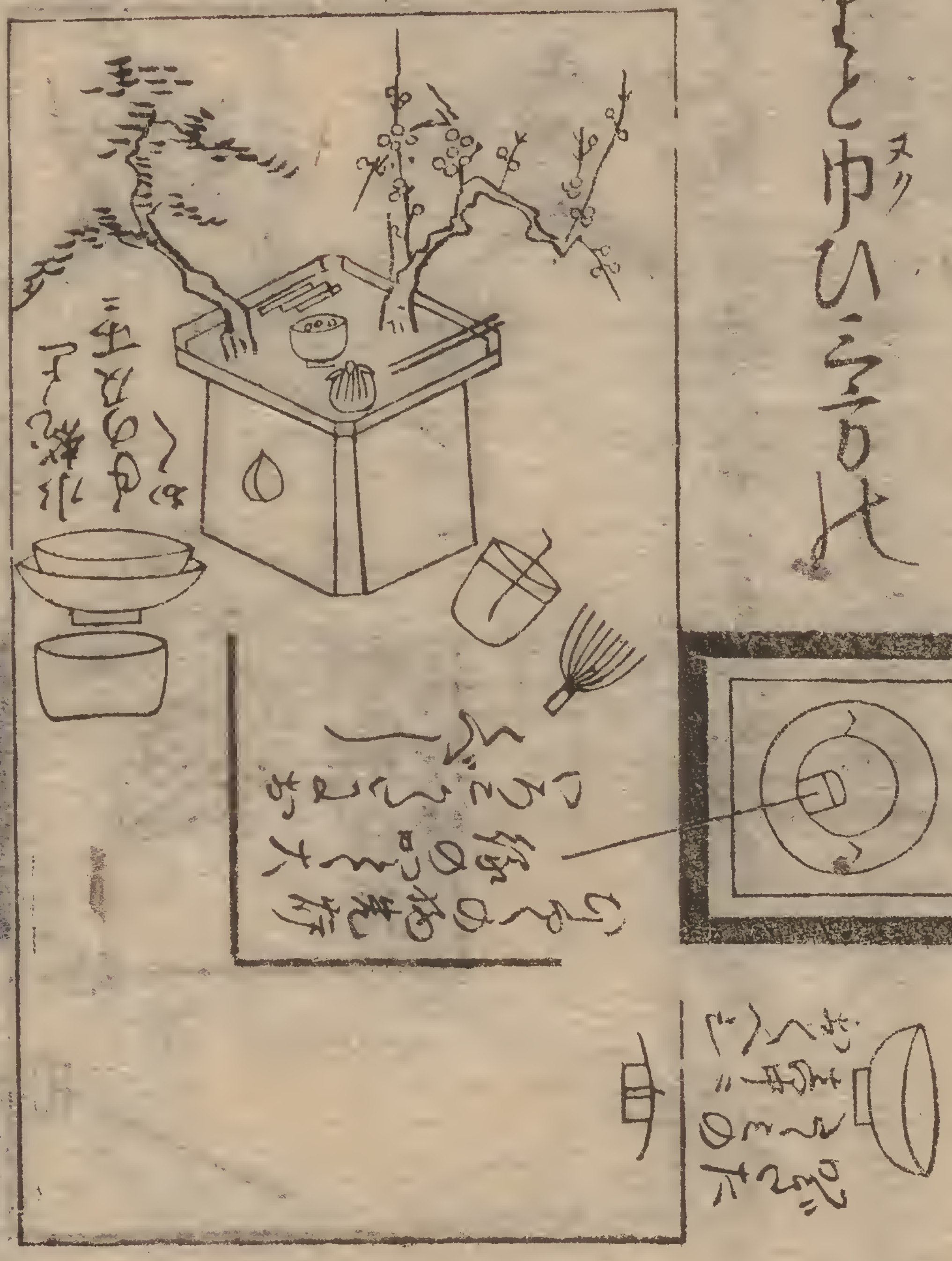
一 廣座敷四畳半切炉あり
三方を文字かざるべし床ハ
何ゆへを絵言
のかけ物絵なし
も墨跡なくとも
勝手次第なるべし
下地も紅梅の花を生
置なをそろひ付座定て亭
主またひ一礼済先大福をニ茶をとらへて勝手より
立ちて水さしとして茶道口の戸を開三重の茶碗を

其まゝ持出如常 扨き三方を
何る事を居く置何も持居かへり
水覆を座常置茶なと口の戸
をしめ小座いて
おへ向ひ座し
おゝふ口ニ三言は
たゝ一禮あり
相さ引きひやくれ右の方へ置座常置ひやくけ
水こぼし膝の上に置三笠の茶碗如常なし二三度茶を
払ふまして上より置帛紗にて座出しはゞきりして左の方へ置を中



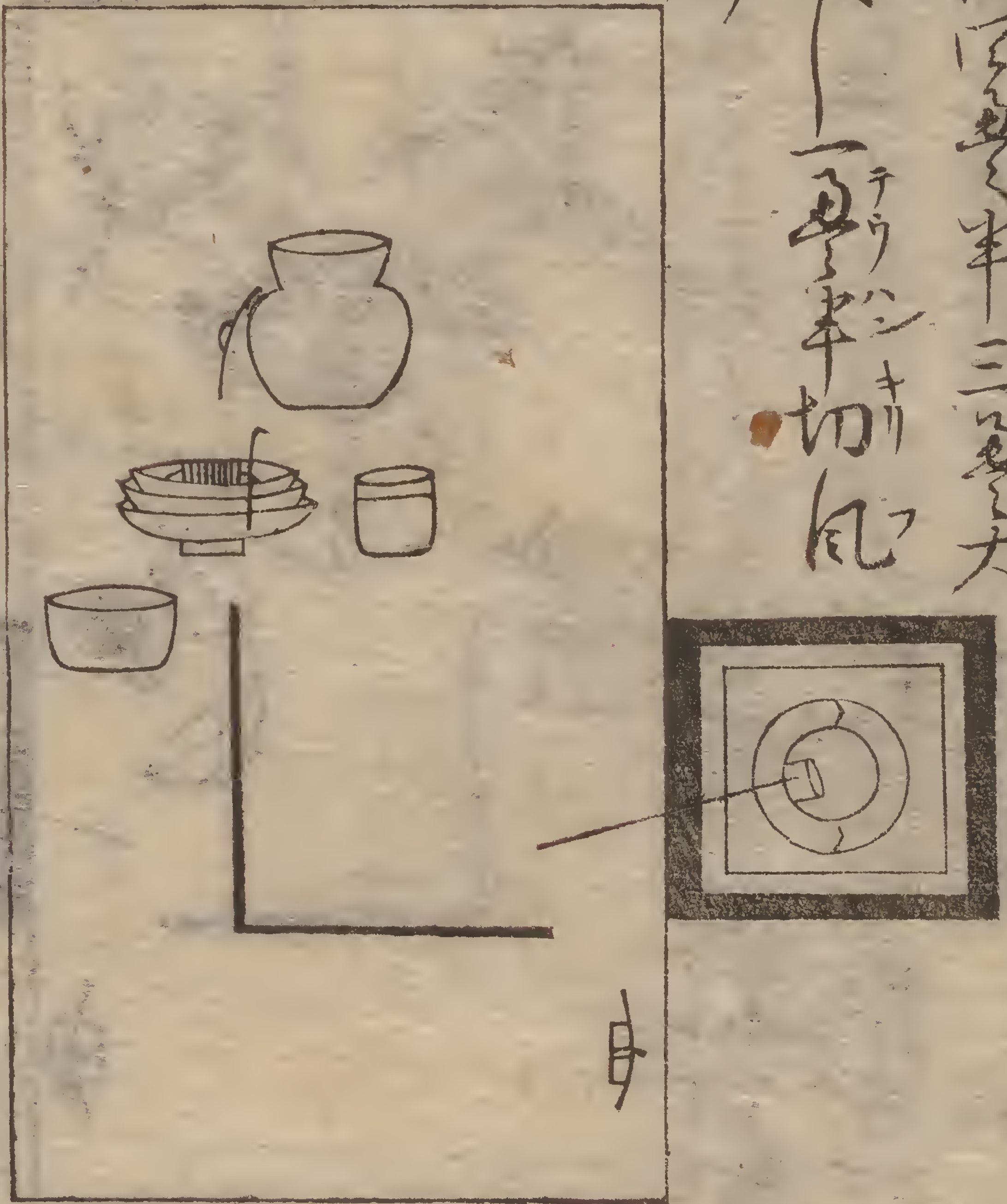
大福茶の時ハ
の炉のかぎり
の炉の中に
ふたの置ふ
のけにあり

〈乳盞〉を試つ拂ひ左の手にて内外方へ
廻し胴をぐるりと巾ひ三方わ
外は方を曲尺
よ及ても此及
こころに置べし
帛を拂ひ扱ふに
摺右のよく茶杓
夜あをのけ巾ひ向へつきおし右のよく捌さきを夜棗の上に置き
茶杓の節此下が棗のかた此中にして置べし捌先ハ膝
向よ横にまとへし右のよく茶筅夜横く棗を縁



筋違に見通し茶筅此かの
ひろがりたる方のよく棗の肩一寸
五歩はけ置べし帛ハ膝にて
さるこ三ヶ所の
茶碗を上に置
をともに手にうけ
水翻のよに置
下さり茶碗をとるによ置しおき右のよくひりやく夜左へ膝
膝によ持おく是によりひらき利休流ハ物杓れかうを欠ぐ
ミまたる横に持又遠州流ハかうをなるかよに持是ハ右は

ていを祕口傳目に出す半三畳大
八畳敷にも持べし一畳半切風
炉なきにハ柄杓
のかざりを鏡によく
飾べし倚の流
をおきとりを
中口づくき心を云



物事に理一分殊の理ひなる事と居くまなび玉へ
腰なる帛をれ出し釜の蓋を試のそうひ取べし帛腰
よききを湯をとるに一ぎりくを茶碗に入柄杓ハ釜にかけ

右のやうに茶巾を茶碗に入湯次三つして角へはくし
あげかけたるかどをとらんで座をおく試手に中の一つの茶巾
取茶をほどきあつめ田の口に掛てそき水翻のとにて志ぼり
おへ持ちゆくあ方の角を筋違先試に持る法とそや
しかし左の手を上右ハたらかしざる方の角をとれ左も手にし
角をとりし手にて持たる方のくを右に
下へこきちぢけ事を右にて持様にして向へくる也こく返
しきくべく又角を右にて持左をとらへし下のはうをかりした
親指よりけ試のに持指先にて又試のにおり上にしておれ
込又筋違折右のやうに持あるくに茶碗をはげたるにつく

湯をとくる茶巾持たる右の手ハ右の膝に置茶碗の上
むくを能こかしまへ置く茶巾をたゝみ入なり
ほどき茶碗の口へかけ外の方へおし武つにおりかけ右のごとく茶
巾の上を指三つちやせんとをまハし茶巾中へ入口を巾にて見よ
茶碗の大小あるく三つの様ひ様ある大なる茶碗ハそこを三ツ
巾にて中茶碗ハ武つ小なる茶碗ハそつ巾ひなく入なるべし
ト置也此毎も主つらくに茶巾三ツ折にして口武つに置て
よく置べし右のごとく茶巾を持上たゝみなどを指右のごとくとこ
きつ持し右のごとく角を持上たゝしのとを指かハり少し見お指
かけ置べし右のごとく茶巾蓋の上に置つまのことよりお

おくべし右のごとく茶筅を取中ほどより少しかゝへて右の膝にお持
左のごとく茶を取指を根によりて少しひらけ寺の茶せんをそへて二
へかけ持ちてのごとく茶の蓋を別蓋に取おきて置べし茶杓
を取し能ほどにちよつと茶碗に入る茶のくさ様に捌りまし
茶ハ茶の入様が杉なりによる茶杓のごとく三杓中を別割おき
向へ押し出し向よりとむべし茶よ別蓋別おきてひとこる
らひ置おく茶杓を取出し置とる込茶の蓋をとれ中のごとく
さべし茶むか座に置茶杓を置し持先指三つのごとく指
茶の向の縁にある持節の処を茶の中におくべし捌持
と右のごとく湯を能ほどに入る捌杓ハ右に懸け右にて

茶筌を取たる手を茶碗縁に掛そへぐハくと廻るべし　茶筌ハ
ゆりすり皈し右のごとく二三めぐりする箸をとれ梅干をとりのごとく點
たる茶碗の中に入楊枝をとり右のごとく茶碗の縁に掛しかし揃
へあはせさるが吉　如常出し水翻のうちなる茶碗をとりれす
洒せんの茶碗ハ紐の壷にひやくれ湯を入柄杓ハ釜に二つけ茶碗
右のごとく及とかまハし湯捨茶巾れ洗いぜんのごとく茶巾かけ
こまハしまゆひそこもゆひ十の手茶巾れと出おハうげさ
茶碗れ蓋にあつき茶杓れ棗ハ蓋及茶を使ひに入出るやし
て手付遣しひやく及湯をそ使捨て入ひやく茶をさうけ
茶　茶碗とれ渡ハぐと廻るべしまさ　此窓の箸と茶梅干を入

楊枝及茶杓の茶入おきをべし又水翻のうちなる茶碗をとれ拗をさて
湯を入茶碗及とまハし捨茶巾れ如くと茶杓茶巾ひやく手にかくさ
茶巾れと茶杓たるゞ茶巾蓋に上蓋茶巾れさバさ極り
のれ此あらひを二ツ折八ツ折ふたつ折り折ぬれと
云六ツ折八茶巾れ角とくとされ并をを合親指より掛角
外ざ方へ折かける八ツ折八角右のごとく九上茶巾れ中に手とお
や指より掛かけまい中よりおり右のごとく又ひとつに折を指先へ
出し引ツ届遣れそ五る九ツ折八角を右のごとく九上れた此
親指に掛けるを茶巾れそ尺へ引遣ハ上ロすの上でほどけぬし
右のごとくちをと引ツにおるべしまたことり湯を

わだて八角とくをくれバし右の人指とたけ高指の先よ
りあきの左のまをひらきてかさねて上よう
割りよりすぐハ茶帛をとりくよあへ、たくよ払り
おり又割りよりハ細もしきを親指よかけ割りよりわ文
割りよりを三中をとよりより右の親指と人指のまあべ
かまへ二よ分る、壱本く冬の蓋よ置へしそ如此
如く数とたゝ向を持八向しちバさ八せざる抱いろくを暖
数を上ずれざとまる人を放まるよ把をお右ゆく茶
杓の先の先を茶を能ほどよ入る何も出来ますへ蓋置
湯をくみ能ほどよ入柄杓ハ釜よかけ茶せんの如く茶

遣し三方の箸を取梅干を入出当あるべし左かまへバ出
拾人右手ハ捨ゆく出しけをし拾くあとを亭主の出べし
くる内茶碗もとゞく碗ると湯をくぎとして水引の上
盛三分ハかゞみ○とその茶碗の晴光二三治よりしまる会
おもてよのり一流よりしいつも茶碗湯をそゝぎそそ
茶筅道口の外を向けて三方を取て後よへ出し水指を取て
三方のおへつかはし水差のかゝを取て水こぼし出よって
左ゆくふらり右の手をそ向よりわかへ露をきるべし右
ゆくかさを乳ぬ直しの指の後よ出持ちけひらくを取
水をたゆくく茶碗よ入水指よひらくハかけ蓋

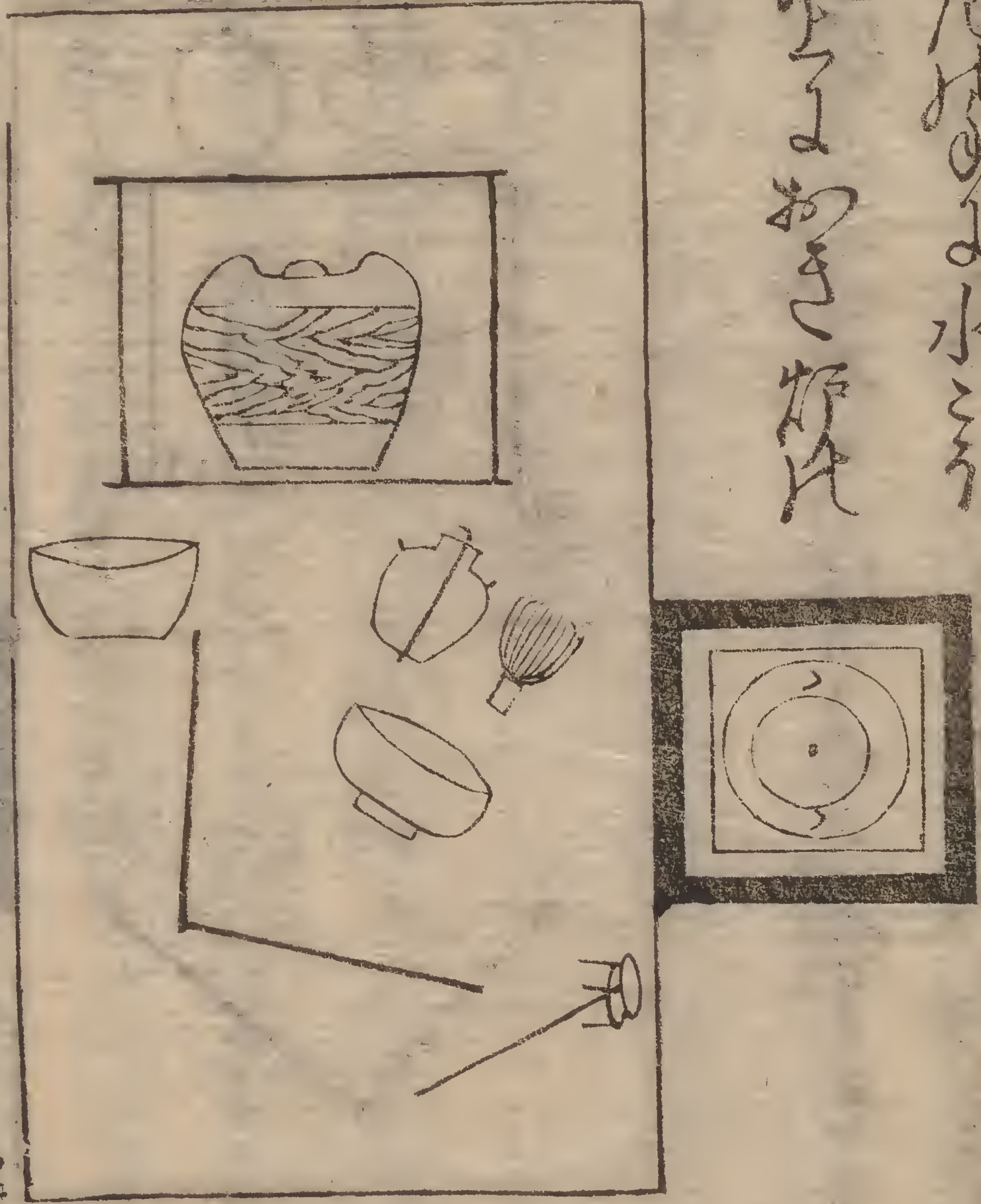
茶筅をハいつもの所よりしとなだ座へをし出し其後ハひざころを
取るまゝおろし茶わん右のかた左へ渡し水を捨茶
巾取ちりうちかへし中へ入下よ蓋右のかたへ茶碗へ茶筅を入茶碗よ
入れたたまを添茶筅ほれ本を掛べし茶筅ハ横よおく
横に入るをあるひとなる茶杓を取練ある帛を取たちハ
きぬのうれかいに巾ひの瓶の上にかく拂ひ帛ハ下ざいへ
置候ほどき帛つまれ巾ひ向へつき出しうけ茶碗
取りなけ帛ハ懐中のうちえおきあと茶碗を取返し○此上へ
蓋物杓をとれ水計もこつも入べし湯飲として仕おこ
しゝよれた左へ渡し左の膝よおき右のかく又ハ蓋をすて

べし物杓ハ蓋置よりけ居あるきに指よ向ひ右のかく蓋
を取たちに指ちりうちかへしよして蓋をとるべし茶巾をとれ
出し○此茶碗出候ハるへあるくぐりくとよしてや
茶飯て茶湯ハ口にそとはけ物杓れ蓋置指と左のかくよ
こぼしを捨又出さぬやうにむけはれ丸を中も海
まへ向ひうらへまた八貝出次つて升せんざひ餅を
まゐるとと云ふなり
一ぜんざい餅をまいるべし此類此番を外此吸口おき下るへく
猶吉物を遣べし與ハ献立指南よ記ス
一餅湯を呉ほとまいるべし餡ぬくべきよ入持出る香合もつゝも目

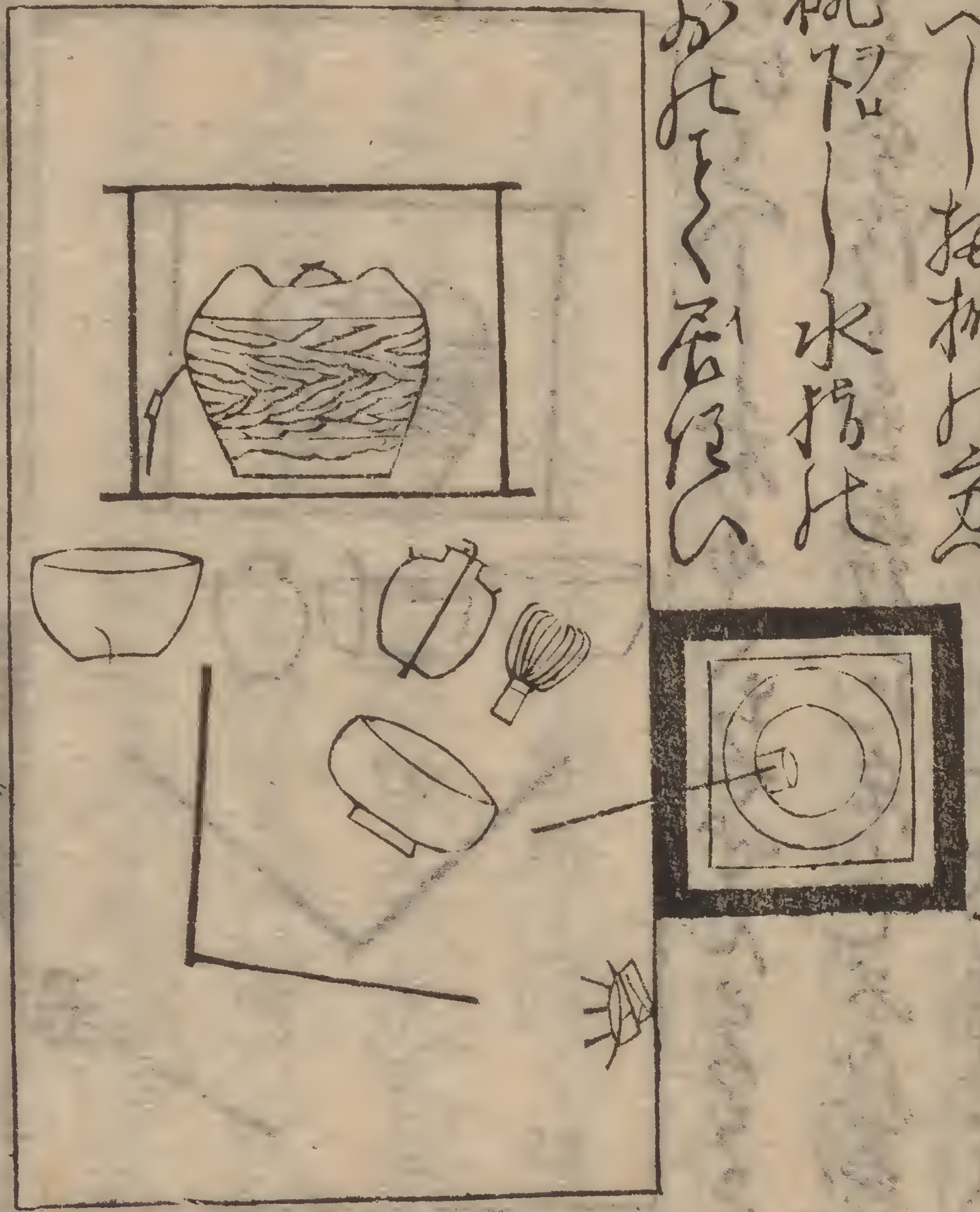
あら後須物帛ハ此時ハ定くちるを　目の雪ハ仕様流儀第之
一茶筅を洗ふ時ハ湯をかけ湯をこぼし幾度もすゝぎてとる
茶巾にてふく也　真の時ハ立茶をかさりかく一柄杓
よく水をさしてひつての湯にすゝぐ
一水指ハ焼もの金のハ焼物茶入ハ大海のぬるべし茶入袋ハ古
錦ハかくべし宝物ハ鉄物の金へ水さし點様常にかはる
此事流儀よくしるべし　又ハ手にあたる可也

一鎖の間ハ小休息所なり
一小座敷　床上に飾る床中にて
より其付て茶入ひつ茶碗
ぞうがんの茶
此ところ茶杓
茶の湯天井
ざハめくたま
らせ文下にて
ざハめくなまこ
あしせらんつるを
かくべしつるを　かゝりハ　先茶

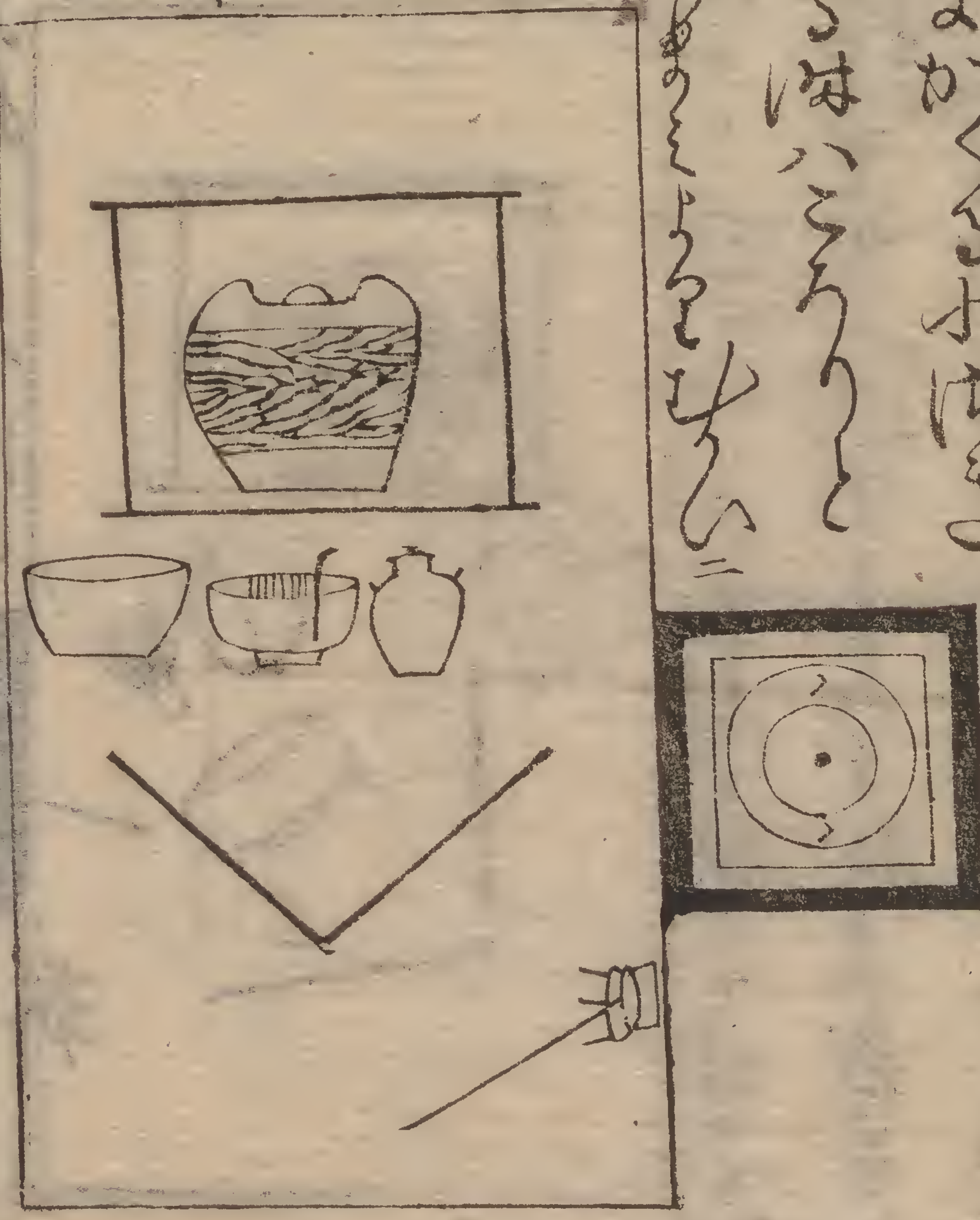
道路戸を明たるのち水こぼしを持出炉のまへにおき炉の方へ打向ひたるまゝしかざの尻をもちひらに膝ひらをたの縁にかけ終て右のわきにちがへしおき茶の口を炉縁に（?）よる板にかざをのべし右はなを左はまへへ引（?）したはまたの縁をとへ引給し用意を越し右膝



よるとりたとりべし棚の方へ向ひ茶入茶碗を下し水指のまん中を引しおのおのくさ居ひして袱紗おかしたゝめ蓋をとれ茶かくたゝみ宗そんれ右へ唐し茶杓おつき帛紗しして茶入れゆひ茶の少薄茶の板をにて茶入れの紐よえてる板に乗て茶筅巾ひかけるもよくつれ分ひきを蓋れおうらそちかなさ



つまとこゝろとおよかゝる水指さ
蓋ハあまりかゝる時ハこゝろして
おつる事故つまこゝろをむすひ二
置る又せをの
ひくき茶入の
ひねたんすや
へいちうさハ茶

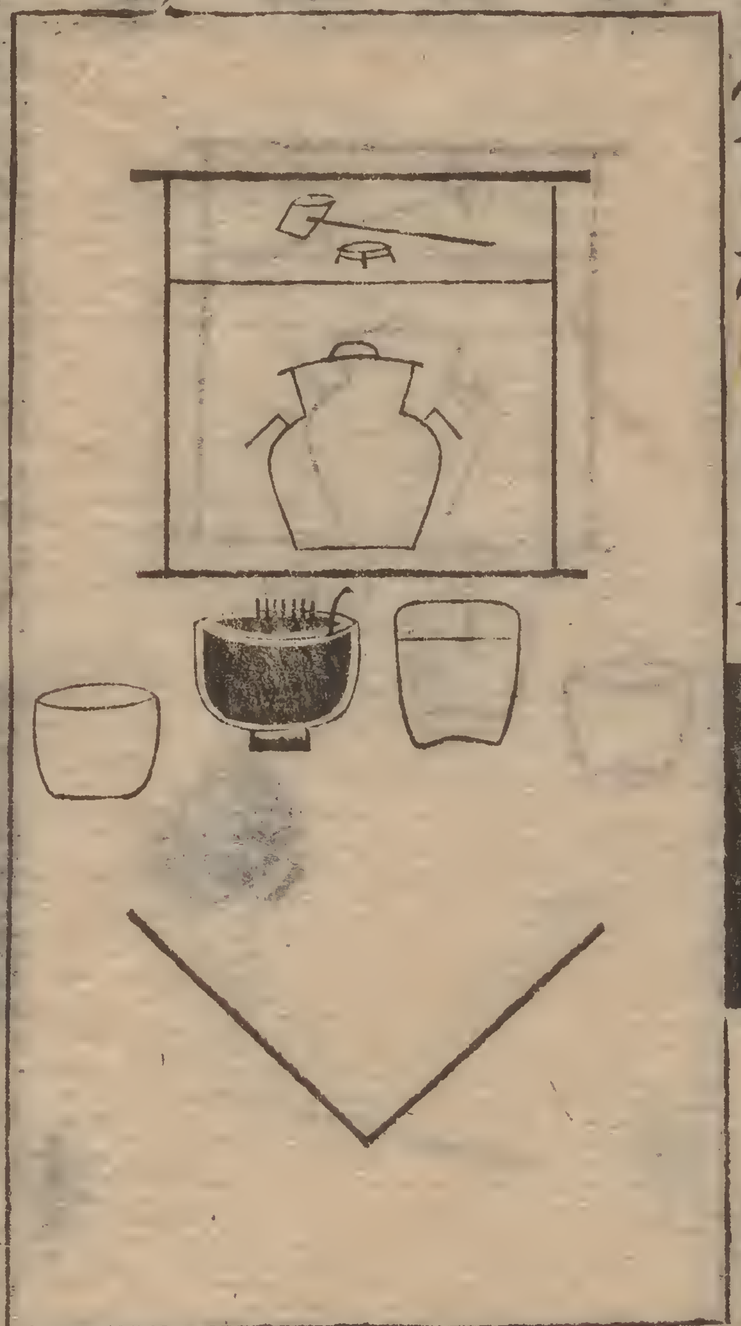


碗をうつむけかくべし右ゆくちやせんこもらく筒
おくべし蓋置ハ茶すゝめ居ど座敷の物見茶筌蓋拂ひ
れべし帛ハよまさゝ茶巾を取茶立此蓋置ともおくさ

茶碗ノ向ひを取引とし炉半此とこゝにて此乃銚子柄杓もちくし
右へ取湯を一をいとを入ひつて茶を入けるべし拂て鐶
如くつき湯此にて攪お茶筅あまりバ中へ止ざる物也ひつてとは
中へ入又ハ中ゆくりしとざきバ如くつく若如くはく時ハ茶此縁
留る事ハあらざる也ひやくを茶此手へ入まを置キツト落とさ
むる時ハ中をまはる也柿くうりくとかゝる時ハ思ひの外點よ
くし能點茶をるる時ハ安き也極茶を祭を取向茨二つて
上ほとりとをん中ほ然し茶巾れたつほり併死して卸よ茶碗
引と湯捨巾ひ下へ置茶巾侭とちりゆくまつてめ茶此たさと
茶杓取茶入取茶入ぎこれひやせ此物よきとゝ垢茶と伏ど

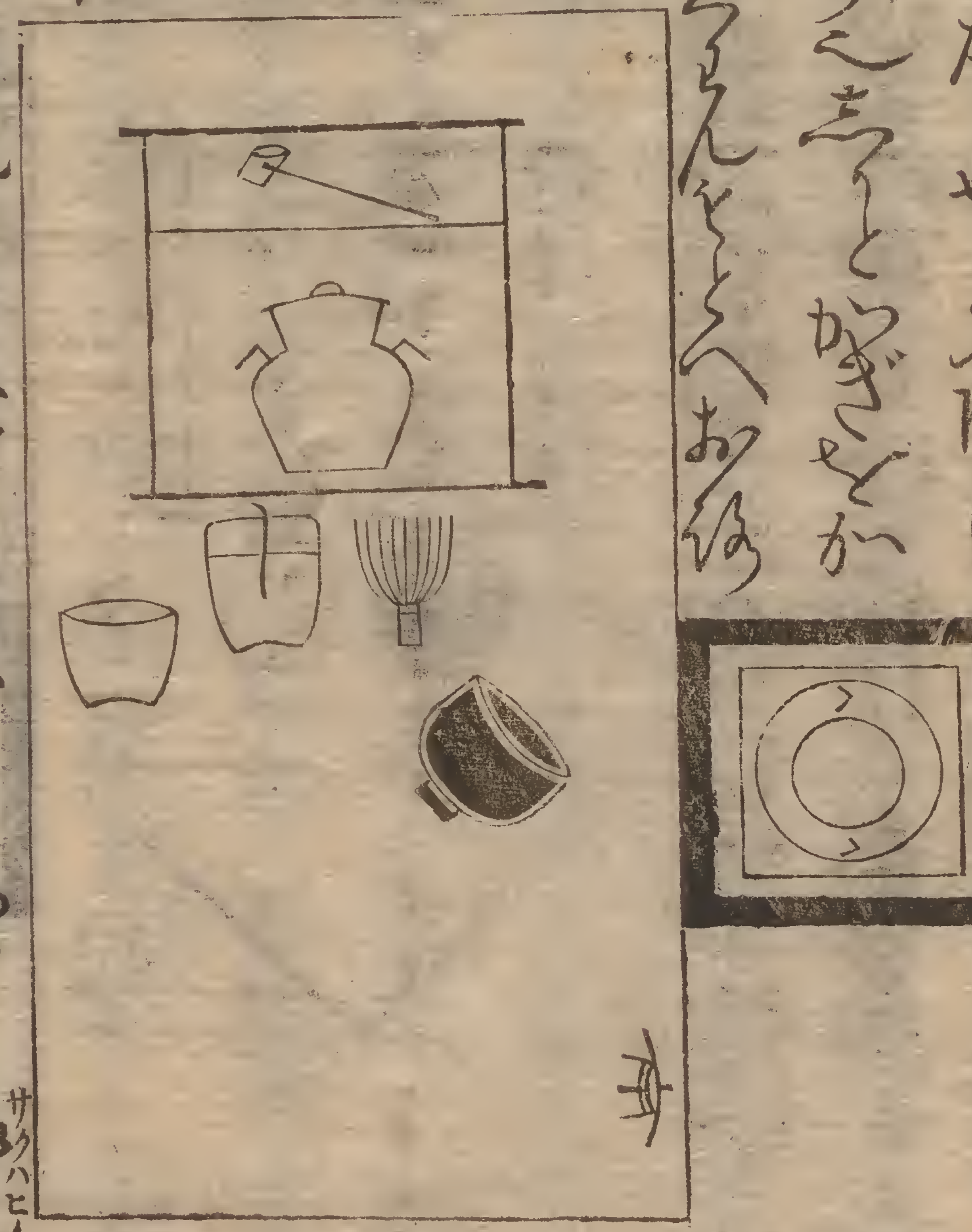
に入ざして中柱へ建し水指の蓋を持より方の中程に置れ指
に裏の方を持てのちの右へおろして置べし扨杓を湯入水指にほど
ように左の手にて八分目へ入べし扨杓をうけ茶碗を左の手にて角か
けりに中柱へ建しかきだてを右の手中に置べし右手を揃て
に置に置こぼしをたて指先をかゞめ置べし揃よれ
ひとつもとを付る事は茶入茶巾を左の手にて釜の蓋をとき
由之茶碗出ると茶巾を同じ畳の隅にめぐく文炉の方
へ寄せかへして柄杓を持左にかきざをひ茶せんこの茶
にぎしとはくほどさげかざを受前膝にお膝し中を
とまし茶杓とりて膝の上へ置るべし

自在[ジザイ]掛[カケ]栖[セイ]棚[ダナ]臼[ウス]茶[チヤ]
せいろふ棚[ダナ]八黒[クロ]棚[ダナ]など重[チヨウ]ある棚[ダナ]之
上だなに茶入茶碗をかざる事も
あり常の下おおく
くる事もあり中
棚[ダナ]はきらめく
ひしゃく蓋置[フタオキ]

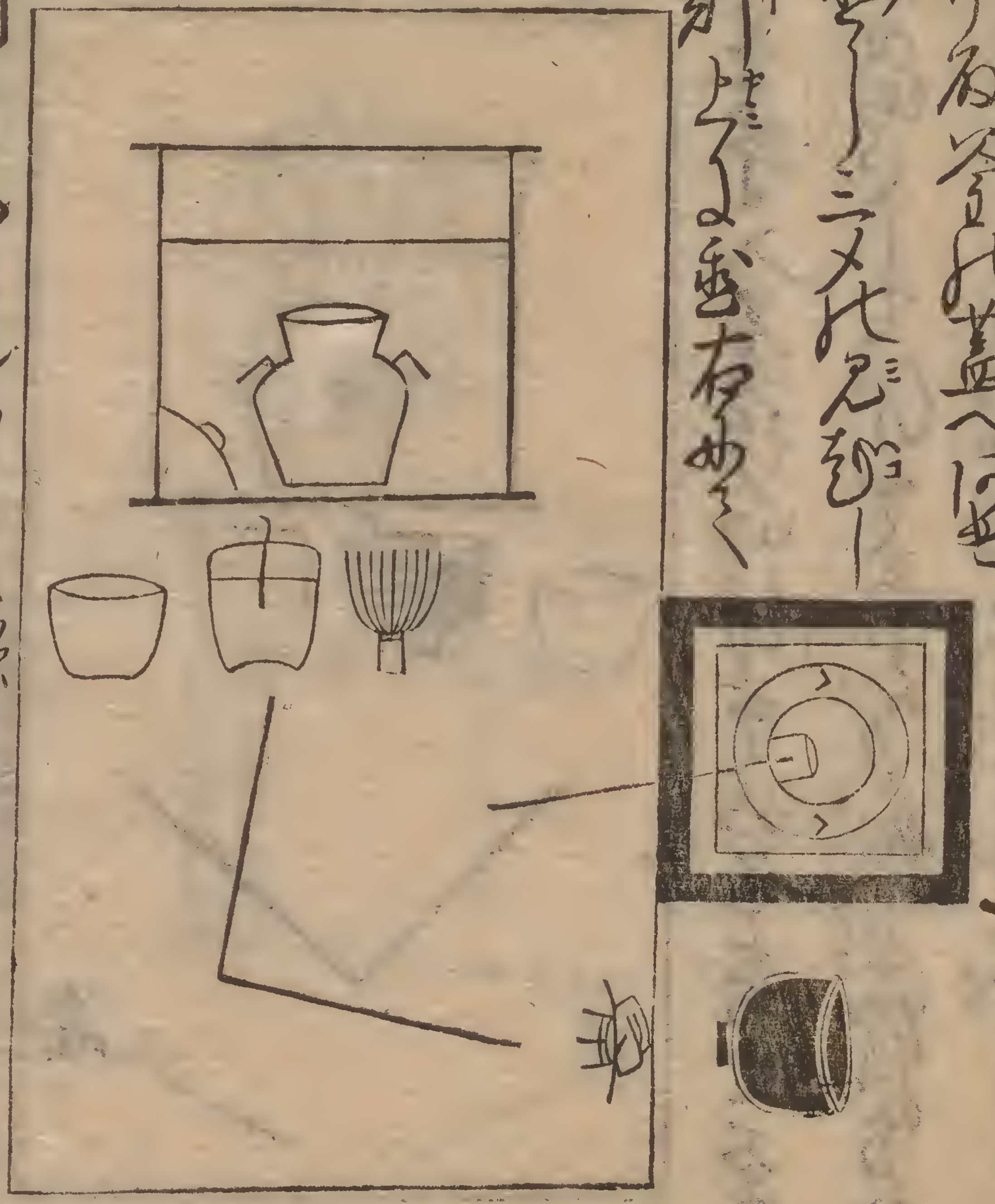


定[チウ]座[ザ]之水翻[コボシ]を持出常のかくかたく炉の方へ向ひ
左の手にてひしゃくをかざし尾[シリ]を乗せ親[オヤ]指[ユビ]と長[タカ]指[ユビ]にてかざ
をおひちがへ尾[シリ]を左の膝[ヒザ]に付まとかゝめ右の親[オヤ]指[ユビ]と人[ヒト]指[サシ]

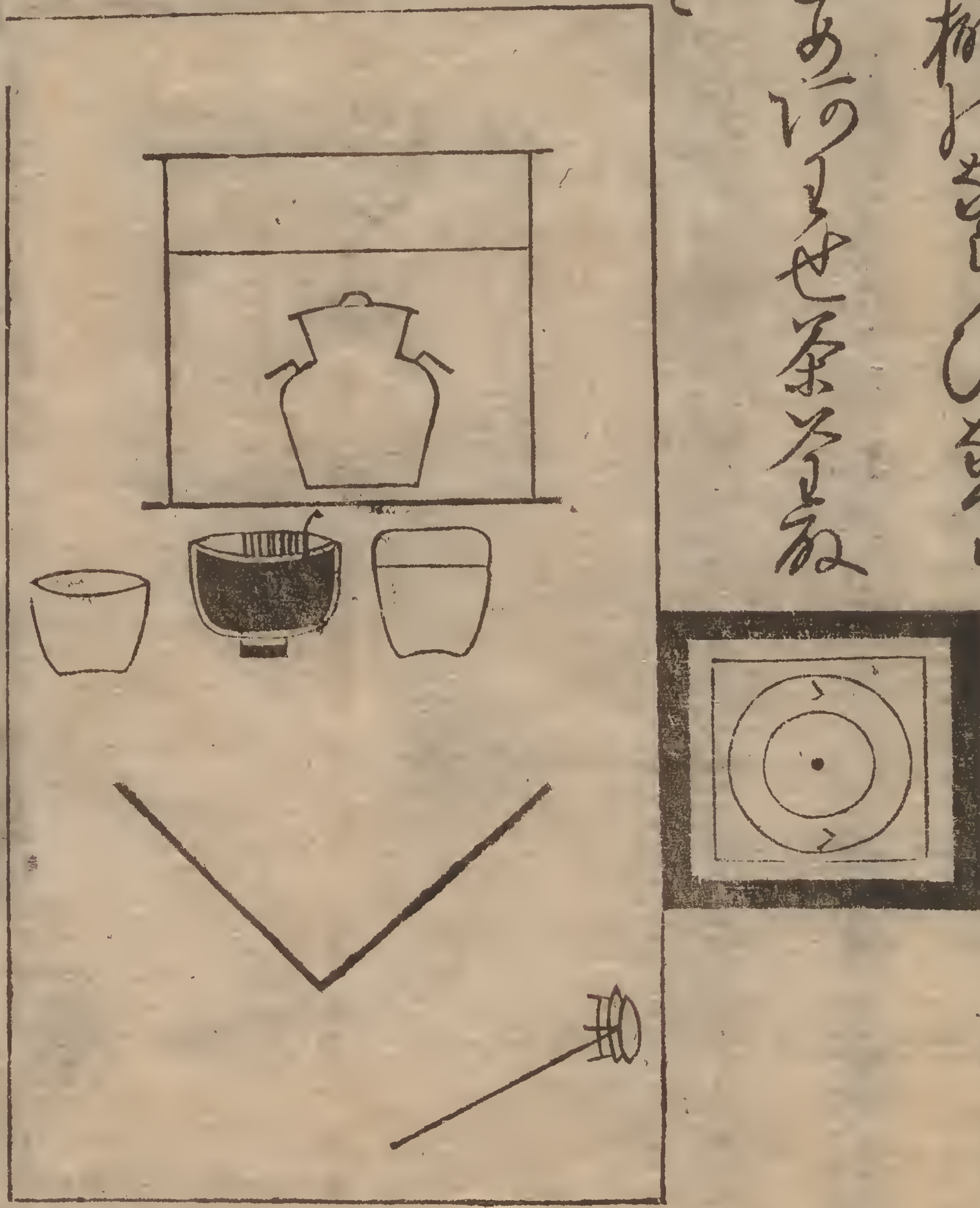
ふくつまみかぎをとり上へひけ
炉縁より八寸之所とかぎをかけ
ため右の手をはなしてへおろ
し又左の手を
おろし蓋を置
右の手にもつべし
跡へさがり居だ
いをして左に茶碗を右へ渡し當帛紗をさばきして茶
茶巾ひきよかぎを帛さばきし茶杓巾ひきよりけ茶釜を
あくべ蓋置を當置帛ふく拂ひ茶碗の蓋を取之帛八拾



取りそうて茶巾を茶碗の蓋へ置
茶碗をと縁よ置きし三ツ目の跡
釜の口乱つよ針よりよ釜右あく
茶杓を取左とそて
へ取出し湯を
くミ茶碗よ入
ひやくの茶を
取湯次三して引きちやせんまはしへ置し茶巾をとりり茶ハ
ん水湯捨巾ひ茶巾をとつて蓋へと茶杓を取出と取茶を続
どり入れよくして水指の蓋を取角柄と水さしとをかけて



釜べしき井楼棚(セイロウタナ)にあらひ蓋を
湯(ユ)を入出もあいのまゝ世茶斗袋
始て出す湯ハ また
幾度(イクタビ)もくも
同し心之湯(ユ)めハ
湯をこぼさして
又茶巾をすゝぎ

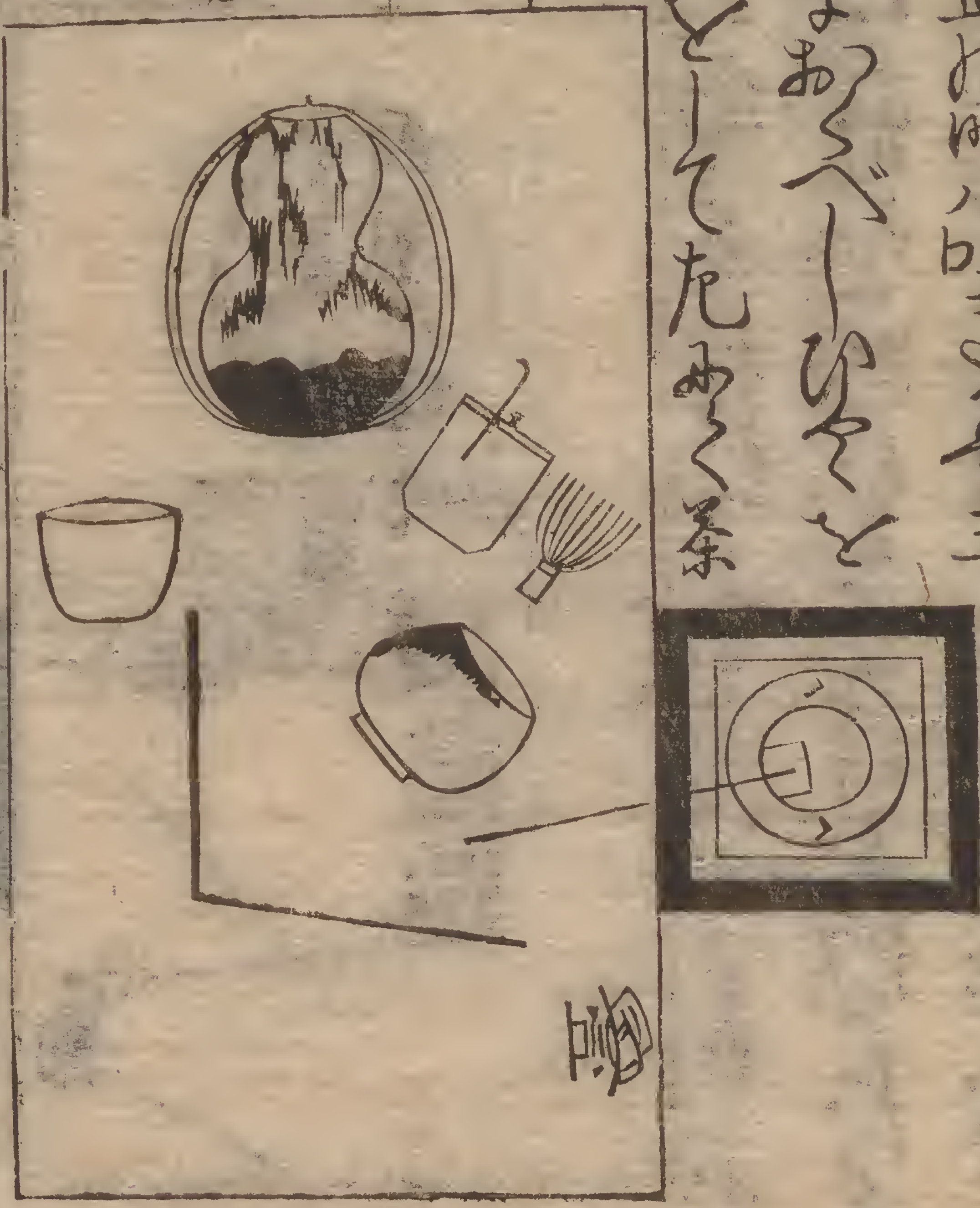


をとし茶巾に入茶筌入釜の杓かけ出し出す茶碗出す
釜水をさし茶碗をさしてひそかにすゝぎ棚(タナ)へあげ炉の前へ向ひ蓋(ニ)
宗(サイセン)茶筅をおして洗(スヽ)ぎはよあるほど下(サゲ)る水こぼし立へし

四畳(テウ)半切(ハンギリ)台徳利(トクリ)二重(ニエンカタツテ)草(ソウ)
一 粟田口焼(アハタクチヤキ)ひさごたんぽぽ餅比
水指(ミツサシ)織部(ヲリベ)風(フウ)以切(スキリ)土不げの茶
碗水指炉(ロ)比上(カミ)
半中(ナカ)比三ノ中(ミシナカ)ハ中よ
釜へし以切(スガリ)茶
碗は三中(ミシナカラミ)割(ハリ)

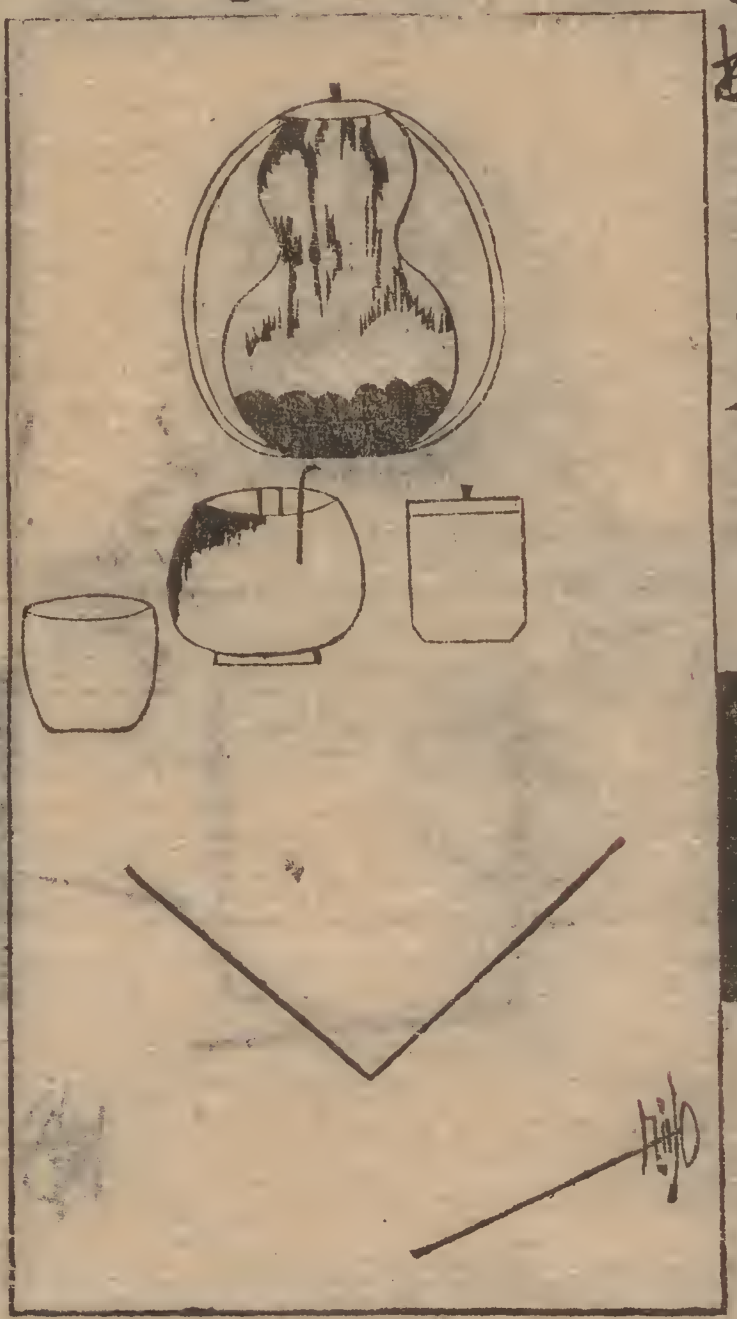
手すゝぎ間(アイダ)之向ハ茶杓れつへざるほどよ釜之水こぼし
へ茶杓蓋釜入持出(モチイデ)炉比上(カミ)かくべれ方にみれけ釜跡(アト)ゆかたくかみて
ひやくるのそくうり手反出す湯大さき此時ハかきだしに三中(ミシナカ)

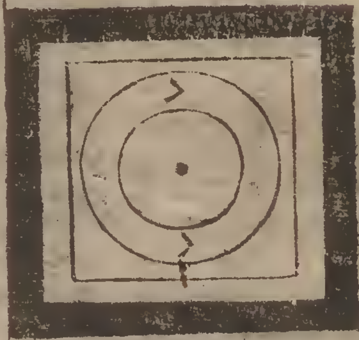
試〆付其小蓋(フタ)此時ハ口ぎ(タ)を三
ツヨ折(カリ)茶杓よおくべしひくを
かけ常ハ従(ズニ)いとしてたゝく茶
碗をとれ右へ廻し
茶を点くべし
腰(コシ)有る帛(フクサ)を取て
しぼりきして
以切(ズキリ)を取出ひきひ早(ニバ)りを巾(スガ)ひ出水指此通(ヨウ)を左へ通(ヨ)し
手此方紙(ヨウシ)よ置べし茶杓巾ひつまみを右(キリ)方へ寄し其(ダ)一文
字(ジ)よ置べし茶筌(セン)を炉縁(フチ)と縁(スン)か乃せ置べし茶碗此



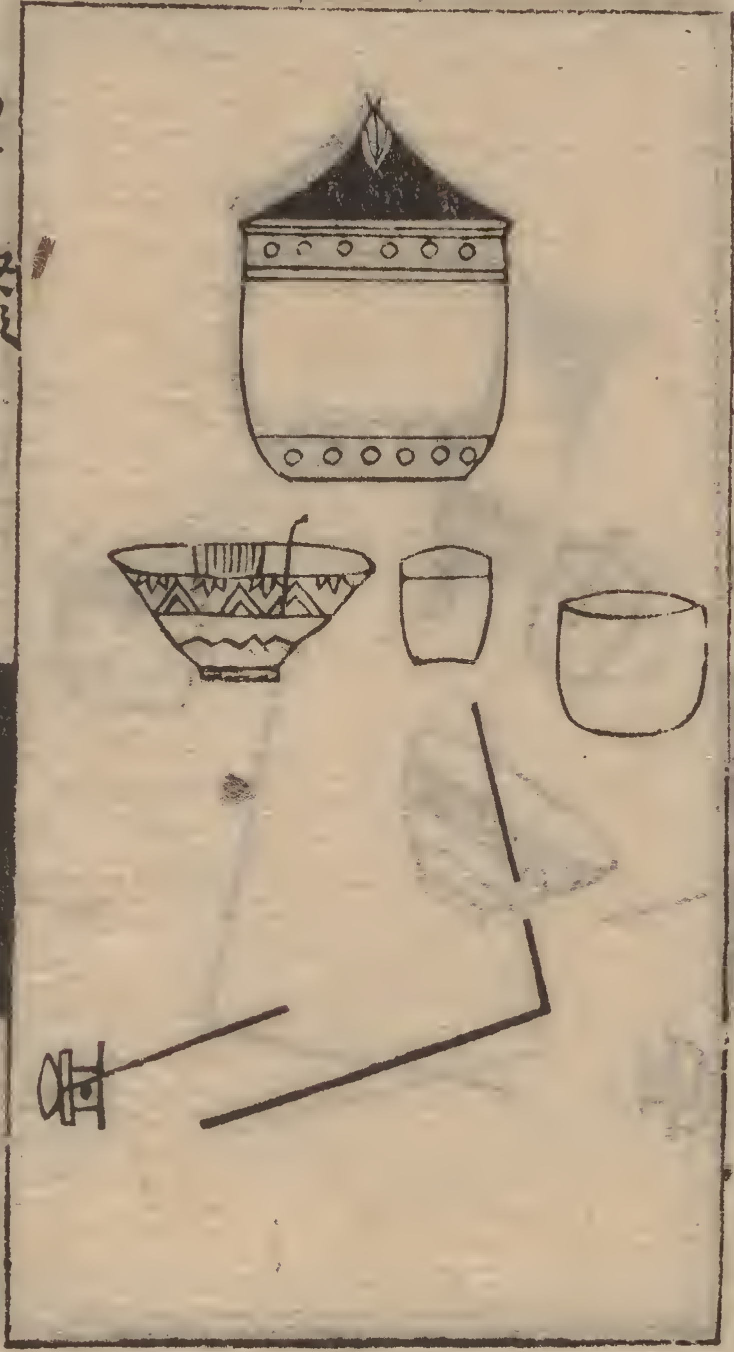
ほ〆し右をゆっく茶杓を左へ渡し帛
ゆっく茶巾蓋を取帛ハ腰よ八たてて
茶巾を取茶巾蓋(フタ)へ上(アゲ)湯一杓ひ茶
碗よ入茶杓を茶(ガ)ニ
継(ツギ)茶をまれテ
湯次ニ口て
引上茶巾を不
置てゆ茶をんし上湯捨(スデ)茶をきねし中ひ下へ置
茶巾総蓋(コボシ)へ上茶杓取以切(スキリ)取引きれひくせ柄(エ)よりけ絶
ほどよもちやを入出束(ツカ)をもし水指此蓋取口露(ツユ)を切取置し

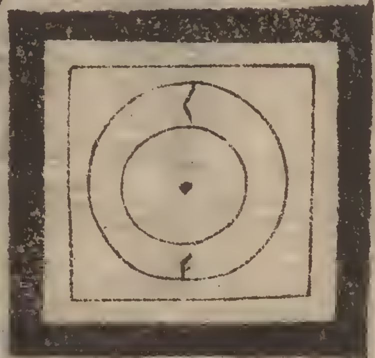
釜ハひやく汲湯を入水を
きこし柄杓ハ茶巾入茶筌
置よく置釜おし出べし
置る點る時ハ
湯をそゝぎとして
茶巾ぬぐい中ハ
茶巾さと左ニ置ハ
點べし茶碗もくも同し事ニ湯もまへくれさて之水
ちや右ゆく置たる置直し蓋してひやくもふきおさき
さを一ちよ柄杓水こぼし持出べし



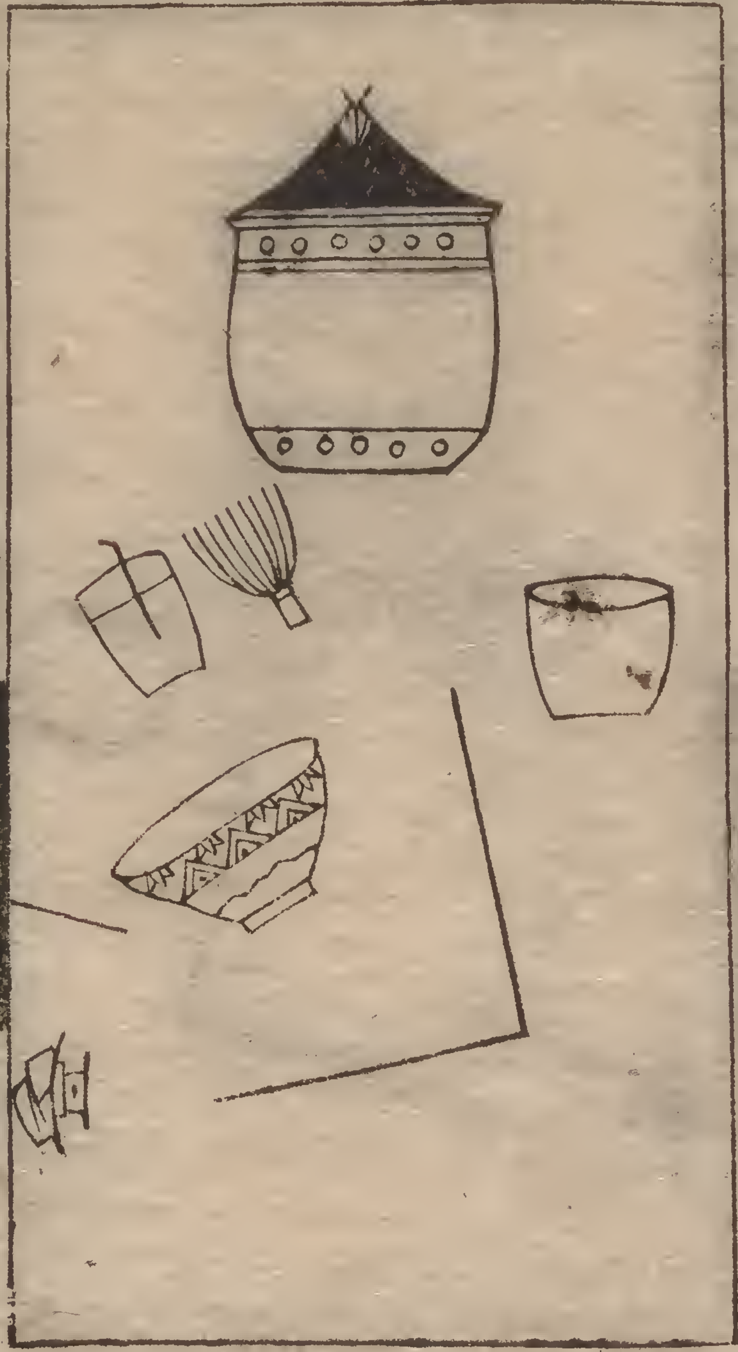


四畳半切迎構ニ茶壷茶ニお
一 棚盤物たに此のゆし棗柄杓ねれ茶碗ちりか建水のまへ
蓋置ひやく入右此ニよ柄杓出し釜炉の上にいへの方にめのけ
置かるに往
いそしてひやく
右ゆく道おうし
置たる置し持
ゆき釜さ置おし炉ぎ炉ぎニつり
柄杓炉ハ方ニ置出して右構に
ハ茶此大小ニかりひやく釜出ぐ

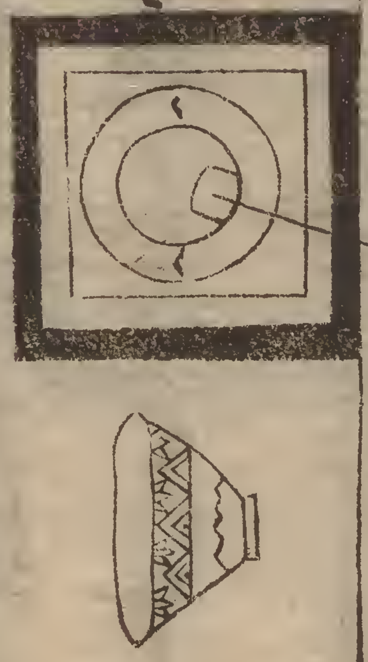




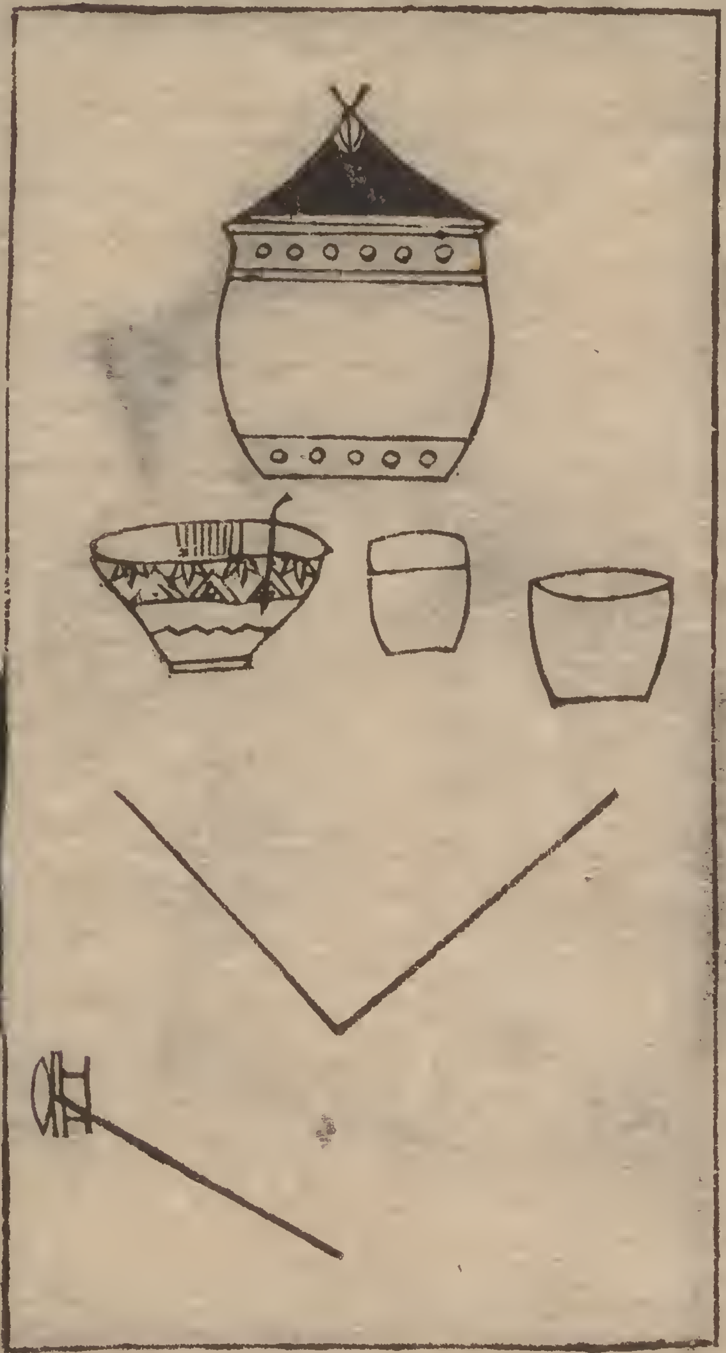
明方いつく柄先(エサキ)を膝(ヒザ)の内へ下ておき掛いをとるべし
左の手にて茶碗を取右へ渡し茶炉(ロ)半(ハン)上三ヶ所に見越(ミコシ)におき
右の手にて茶入を
膝の内に置帛
取出しあつかき
夫より二ツ折巳
と帛の茶莊(カザル)
炉縁(ツチ)と水指の通を知つ釘(クギ)
て其中茶釜(サン)一ヶ所に見を付
右之手前なれハ心得置べし



帛ちがき茶杓を取巾は巻て付茶入の蓋を取立べし
ひざに置帛にて茶入の蓋を取付帛揃(コシ)にさし茶巾を
のせ茶碗へ杓子を入柄杓を取て大いに二杯茶を入
茶を取てさし
三ツ也て上茶
巾を入て直(スグ)に
茶碗の湯(ユ)を
すくい巾ひさきにて帛
ちり茶入の蓋へ上をさし丸出て
取釘(クリ)にて取茶をも茶を能

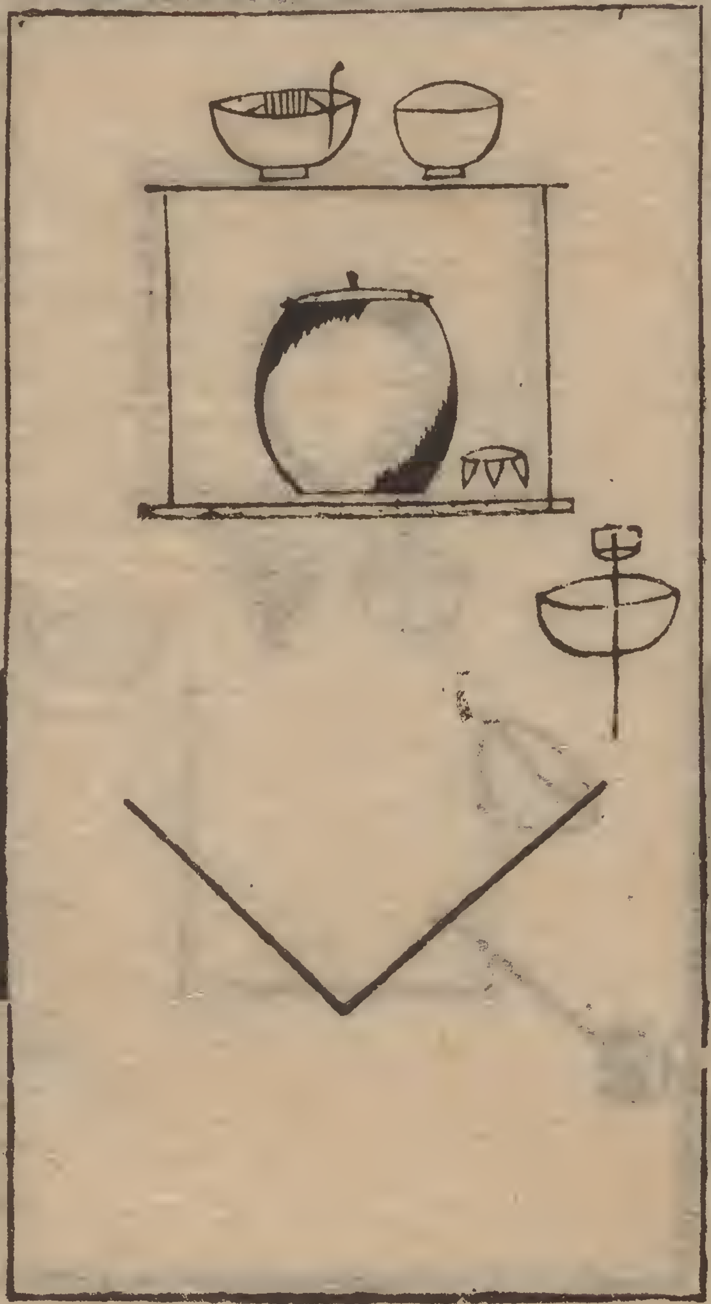


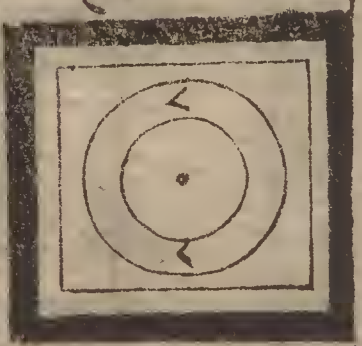
ほどよく入其の蓋をとくまはへきし水翻(サビ)れにさを取
露(ツユ)を切出茶わん掛けひらくれ湯を入水一つをひらくからあ
合法ハ常ノ入る
茶碗取ちハく
とぬるべし茶
おス何ぬくした
く極めよろしかけ
復も常のごとく中ひらくを飾れ
台へ取直し是ハまつる教之モ外
叶るまじ



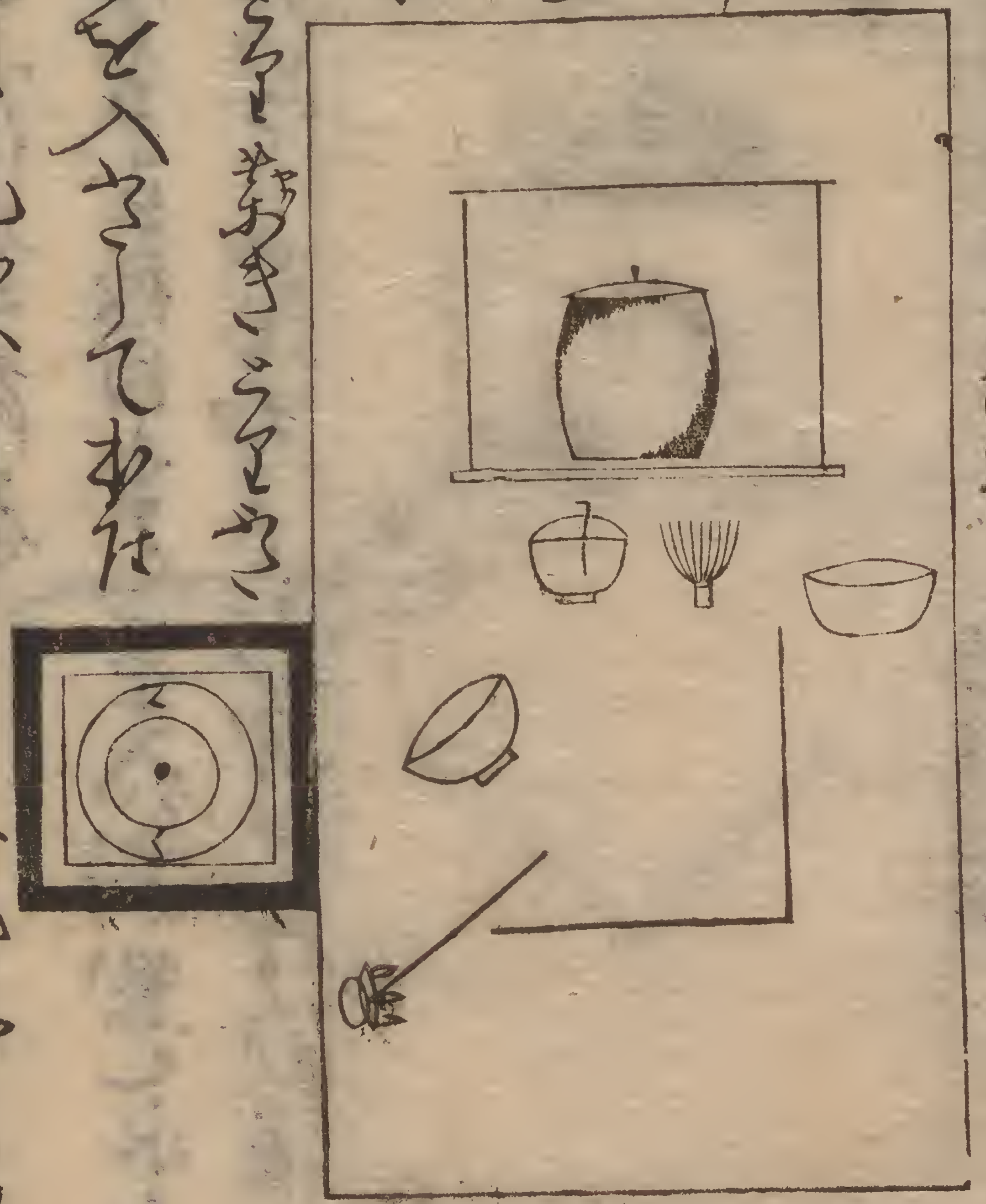
逆勝(ギヤクカツテ)手小体茶臺(ダイ)茶

一 逆勝手と小体茶臺極同事と茶入ハ薬(ヤク)器(キ)と水こぼし
まひらく臺持いて出茶わんさたるよろしひ茶入茶碗
こもりあまし
扱ひしたのまま
へよ臺ハ作法て
蓋臺を取出茶わ
きひらくれしけ茶碗取出茶臺
薬器ハおよおかき帛取扱ひさばき
巾ひろよかよるべし茶杓臺茶碗取らべく帛揉(モミ)て



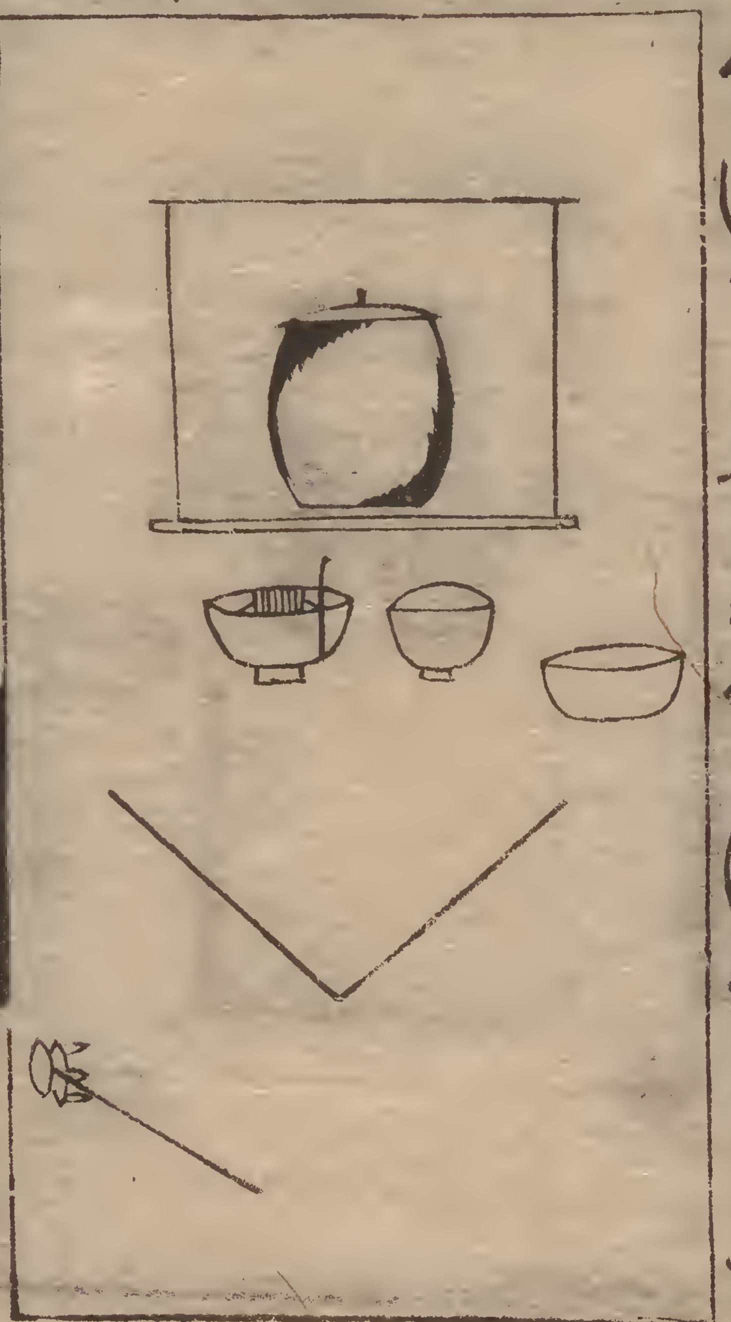


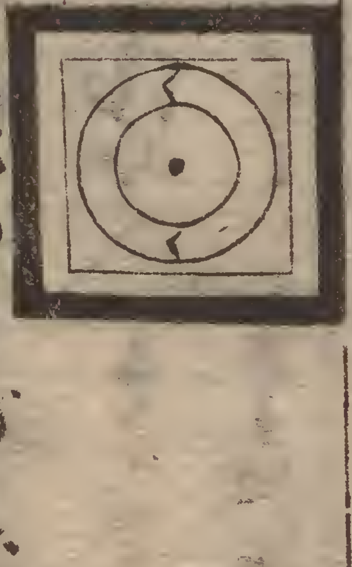
ちいさく茶巾をさばきたゝみ又茶碗に入ひしやくをた
へお箱帛紗出し茶入盖拂ひをべし帛紗はちいさく
湯を入ひしやく茶せんにて茶をたてやうの事と
茶碗を乳茶巾
乳湯掛ふ巾べし
中へ入すゝぎ下に置
茶巾乳きてうちが
お盖上ちつく茶杓をとりさ
茶杓程茶を入さしてあは
へきし水指ふた乳はらくお箱ひしやく乳湯を



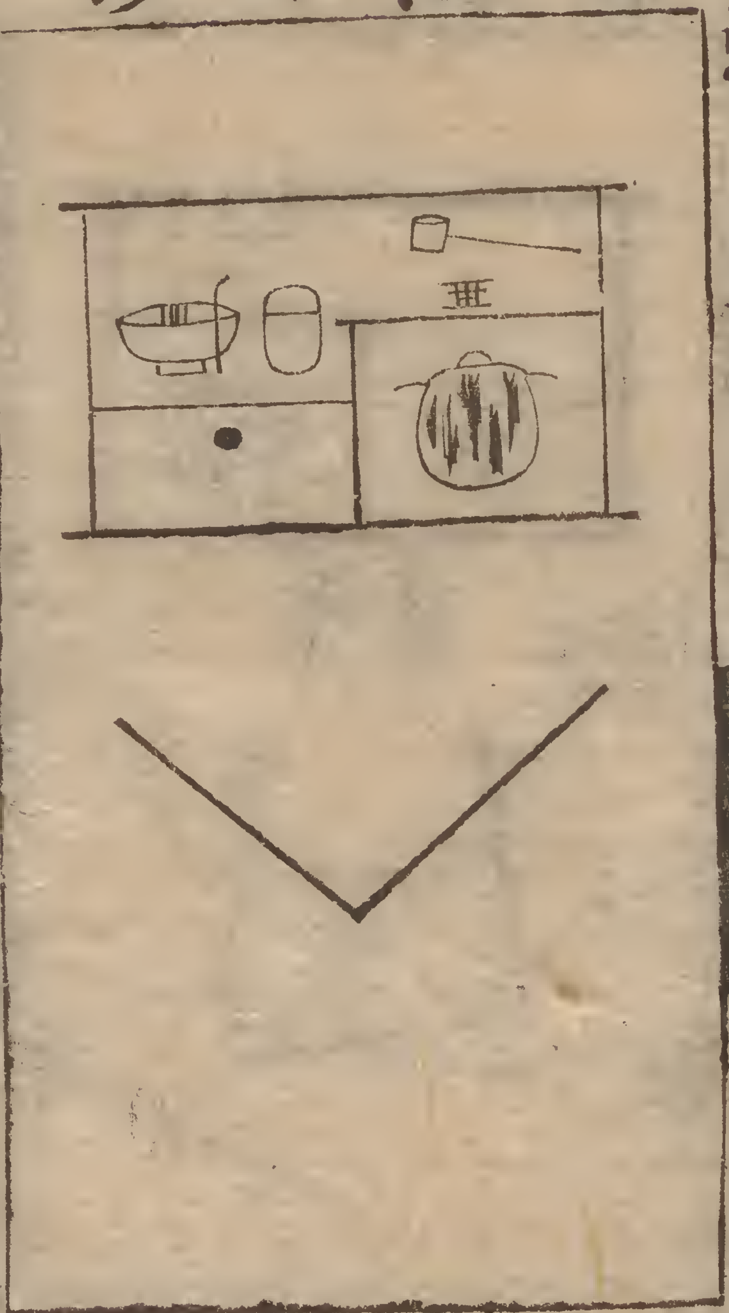
くうちはぐに入水こぼしをつめ蓋置をへ入茶入乳
をべし茶碗に湯を入すゝぎて茶
中ふく中ひトに置茶巾乳上ちうしめおけへ
茶杓をふきて乳と乳ぎて茶
へきし湯を入水をつめ茶碗乳

かと来る度もく同しすし滌めの八湯にくゞらせとして
又湯を入水一こゝろとまぜ八茶碗に入まぜ八茶を入流るべし
茶巾を入一湯次して流しまぜ[illegible]湯残茶巾入茶筅
入茶杓をうけ
茶きんを出し
茶碗を一の置物
杓并水を一まぜ又
湯を一ましてれ茶筅をまぜべし
ひやゝれまづしけ茶を洗ひ
とをそ柄へ茶巾茶碗をはぐべし 水飜物杓指立へし

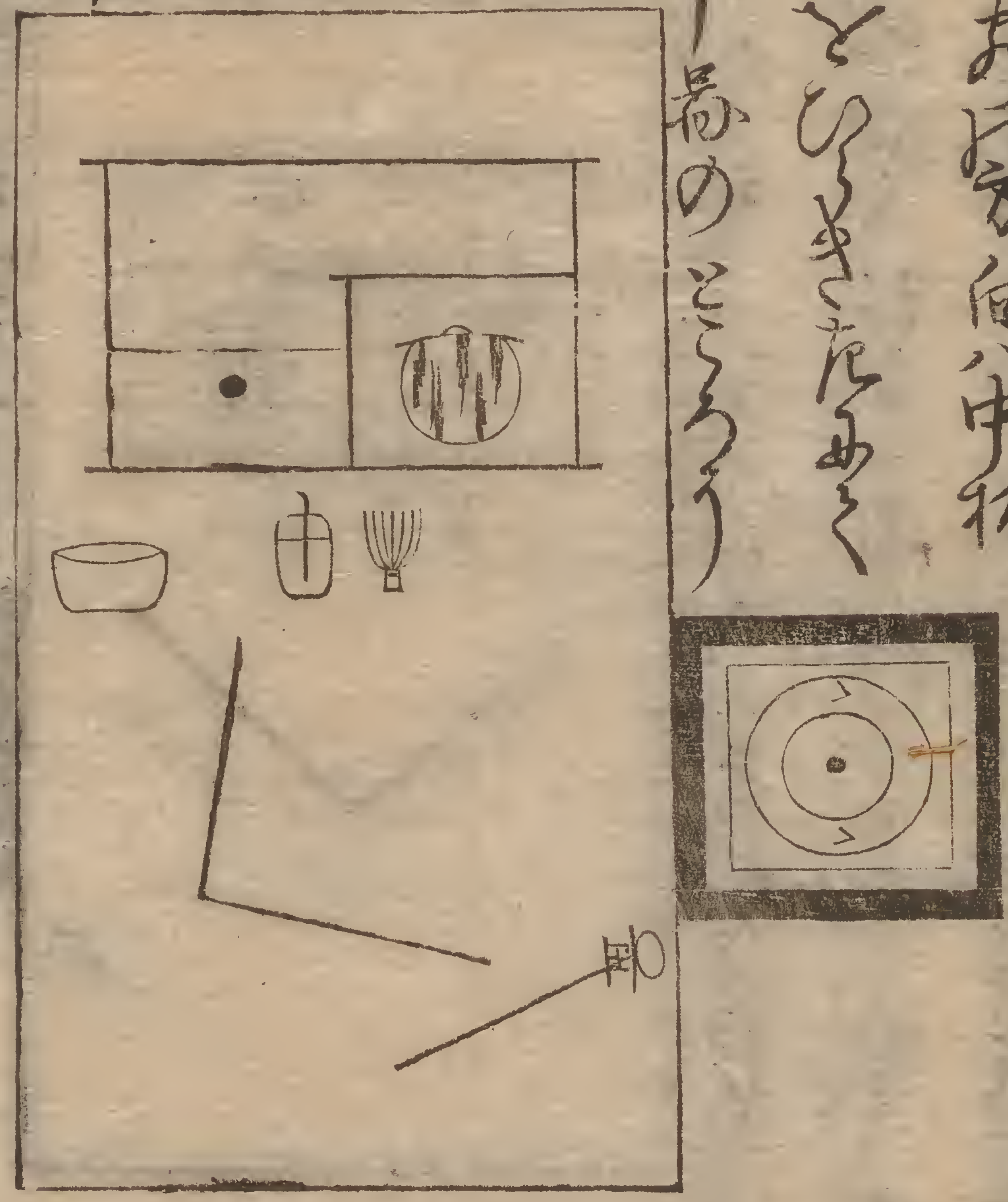




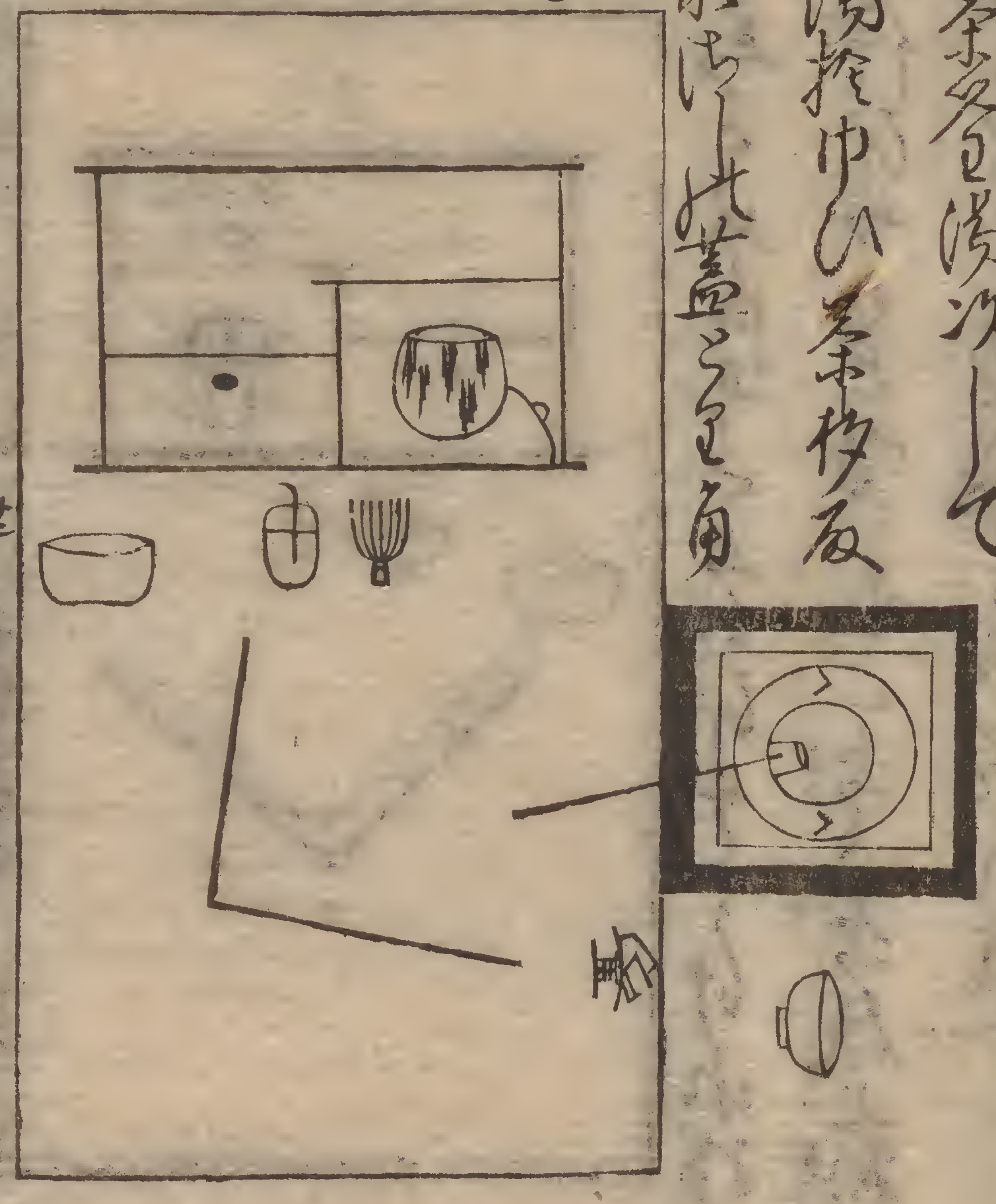
一
番建水だてる八ツ建に柄杓あやうしを天井
湯に代合柄杓ま八此家茶
に茶碗を並がホンニキ式の[illegible]とと
前に有八香
だいとく明置
之紙をもかゝく
おく事もなき湯の
中に八[illegible]のこぶしを入おく水茶杓上に八[illegible]茶を
をひらくうるさきをおくたるゝ之帛紗にもてきおく茶
碗をも[illegible]茶杓をおくさ右に[illegible]流れつまみを



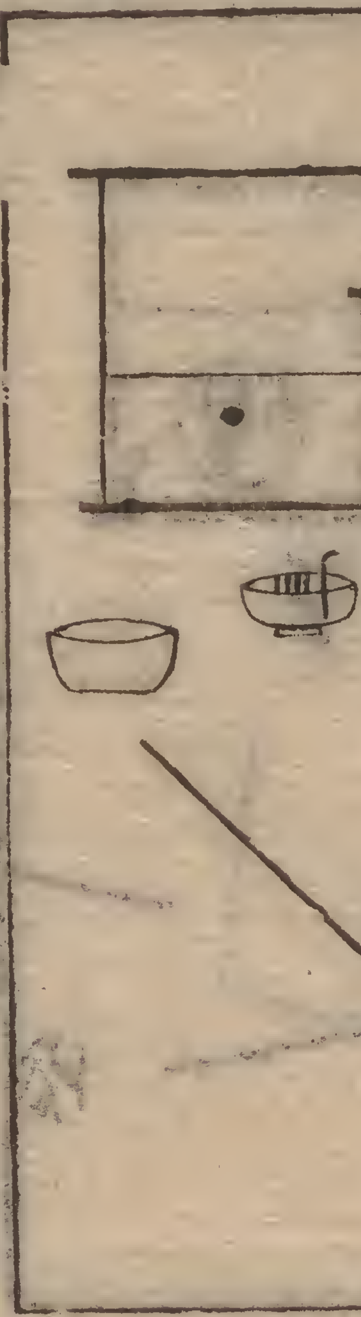
持戸をしめしまひ其方向(ムカウ)ハ中柱
まつけ勝手方をひらきたるまゝ
水翻(コボシ)を取おろし器のところへ
おきおはりて戸
をしめ次第をとる
居住居をなほる
茶碗取おろし帛
紗をさして帛をゆひ出茶中柱をまへにしてかざるべし
茶杓は茶筌かざる蓋取おろしひらく此時置合
又ふくさをたゝみ取茶碗にて茶巾を茶碗取出し

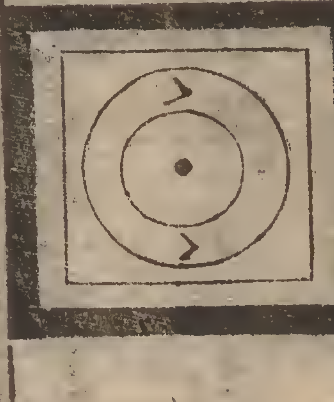


柄杓にて湯を入茶筌湯次して
茶巾出しぼり湯捨巾ひ茶杓取
出し茶碗を入水指の蓋を取角
柱(ハシラ)と水指の間に置
け湯よき程入
水をさし
持て茶入入茶
茶杓をかざりてよき所へ持ゆくべしかくおとし
始め茶碗取ると湯をつぎして又湯を入水を一まひくと
出す八茶碗に入出す八茶入へ入茶筌をうちてはなすべし

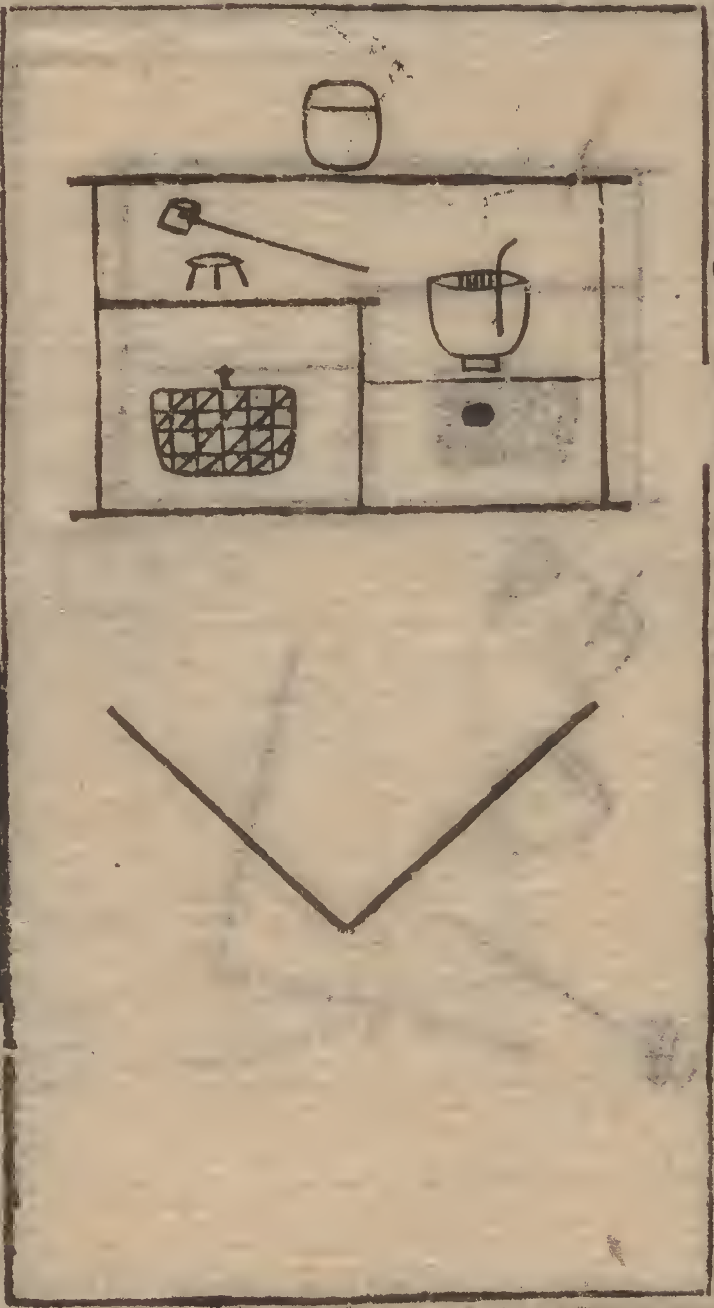


湯をくミ茶巾入下ニ置茶筅入茶
杓うけまく右置し茶碗とるへ
置べしひやくれ水を二ツ二ツ
けし湯かへしまく茶杓をくひやくうけ水指の向に
蓋をとるへしま侍ひやくと置く置上茶碗上棚へ置見
飾たるへ置見侍に深けにるへし水翻兄之

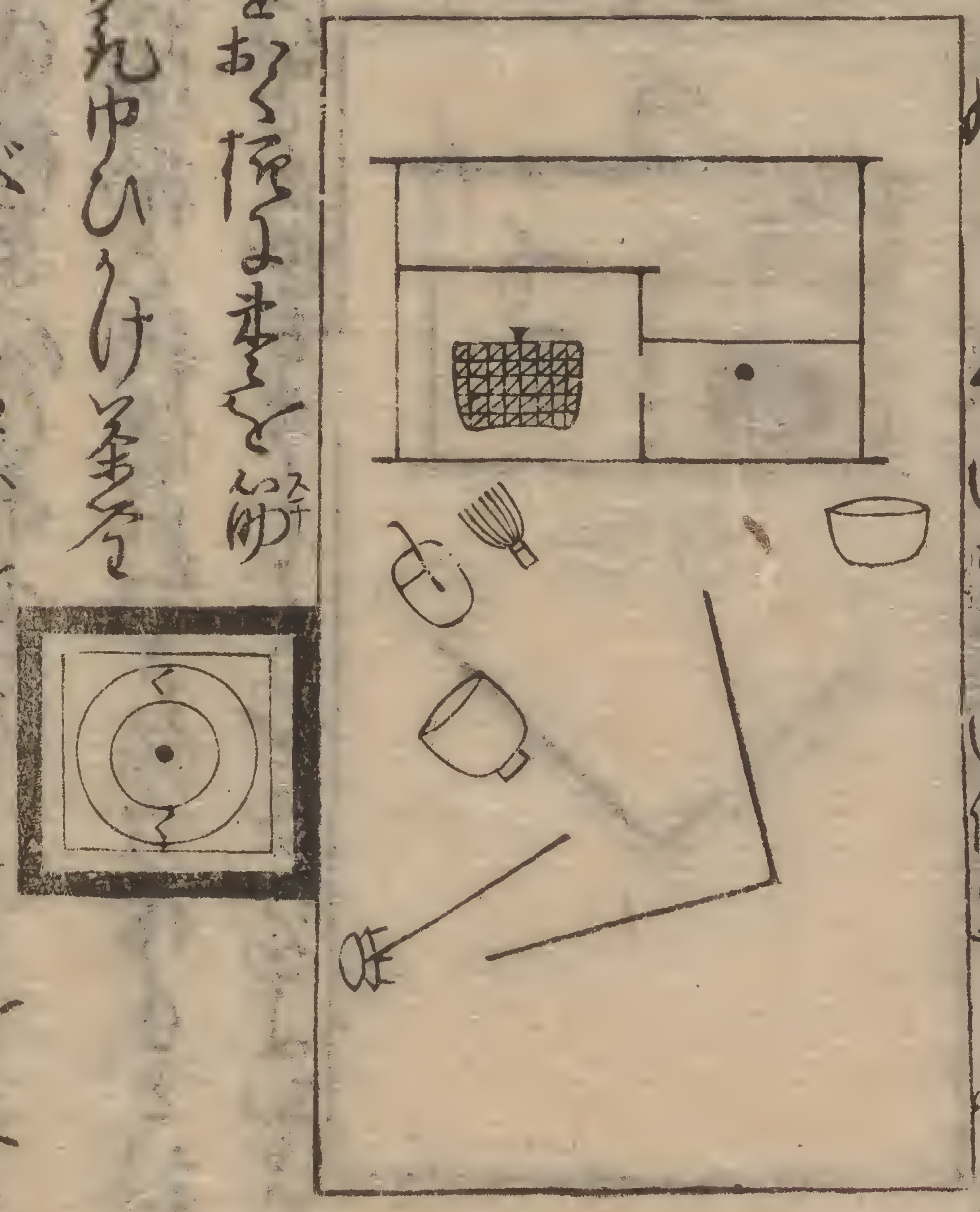




違棚(チガイ)勝手(カツテ)袋(フクロ)棚茶式後茶まする
一此勝手ぬなら棚ハ違棚と袋棚と八つき棚以侍手と八かい毎
あるまし其に故違ひだかとも勝手をかりて上たなにおきて香櫃(カウ)
に茶碗を置へき
ともにうつとけ茶入ハ
茶碗と薄(セウ)碗にて
置かざるを上
棚に香をかさる事も又ハ香櫃
に香をかざるし侍に深ふし侍る
此手前の時ハ手向ひまゝを右水指しれ前に立置く尤ニて

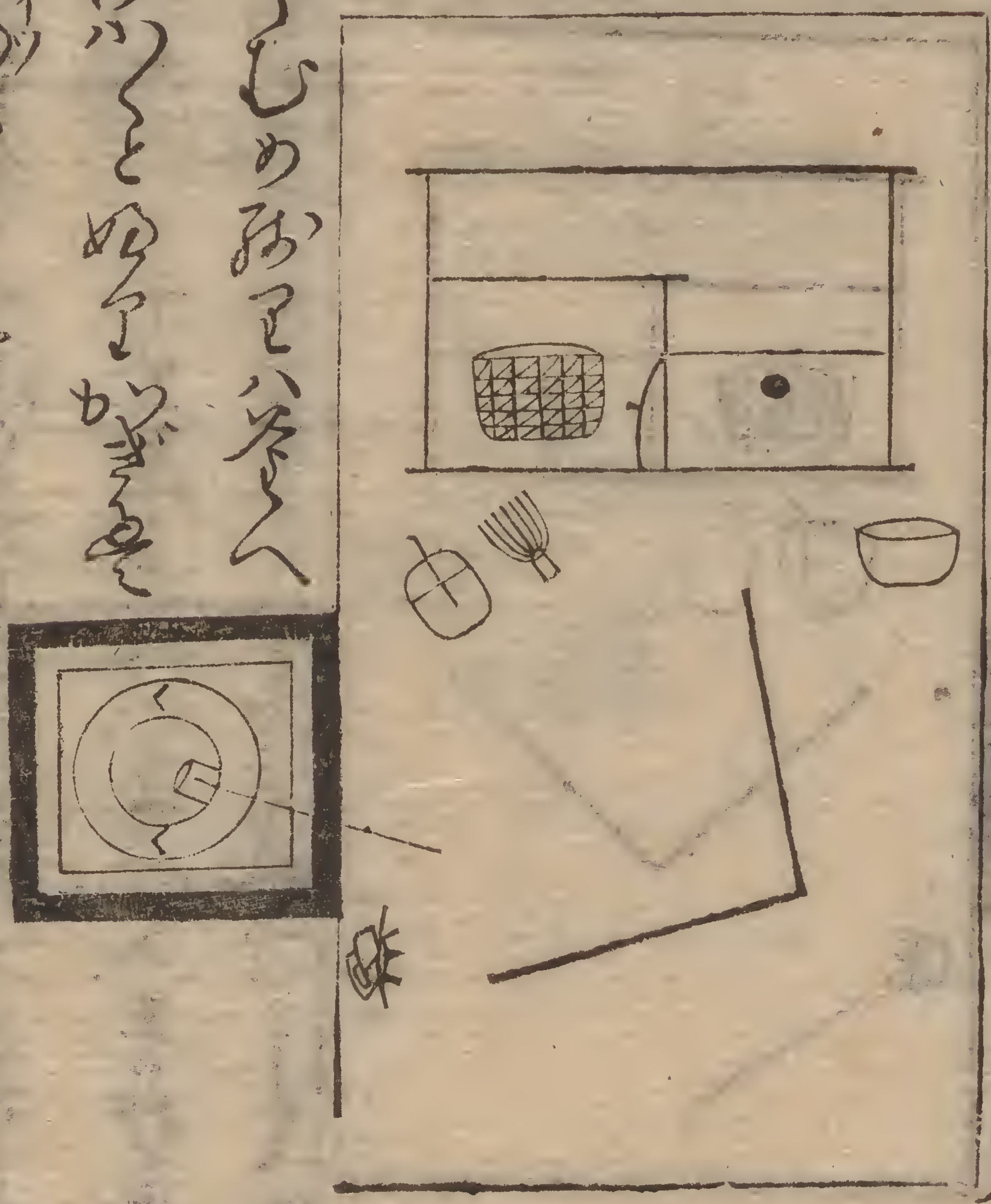


ちやわんを取右の手を添あぐるかざる左の手に落れつまみと
掛戸とをげしあつきとバたゝりはけひきとき右の手て水翫
と取出し柄ハをとけくしていあといはいとして左の手く
ちやわんを置い
りを仕ぐくおきて
釜を取帛の手くぬ
ぐひ水さしの



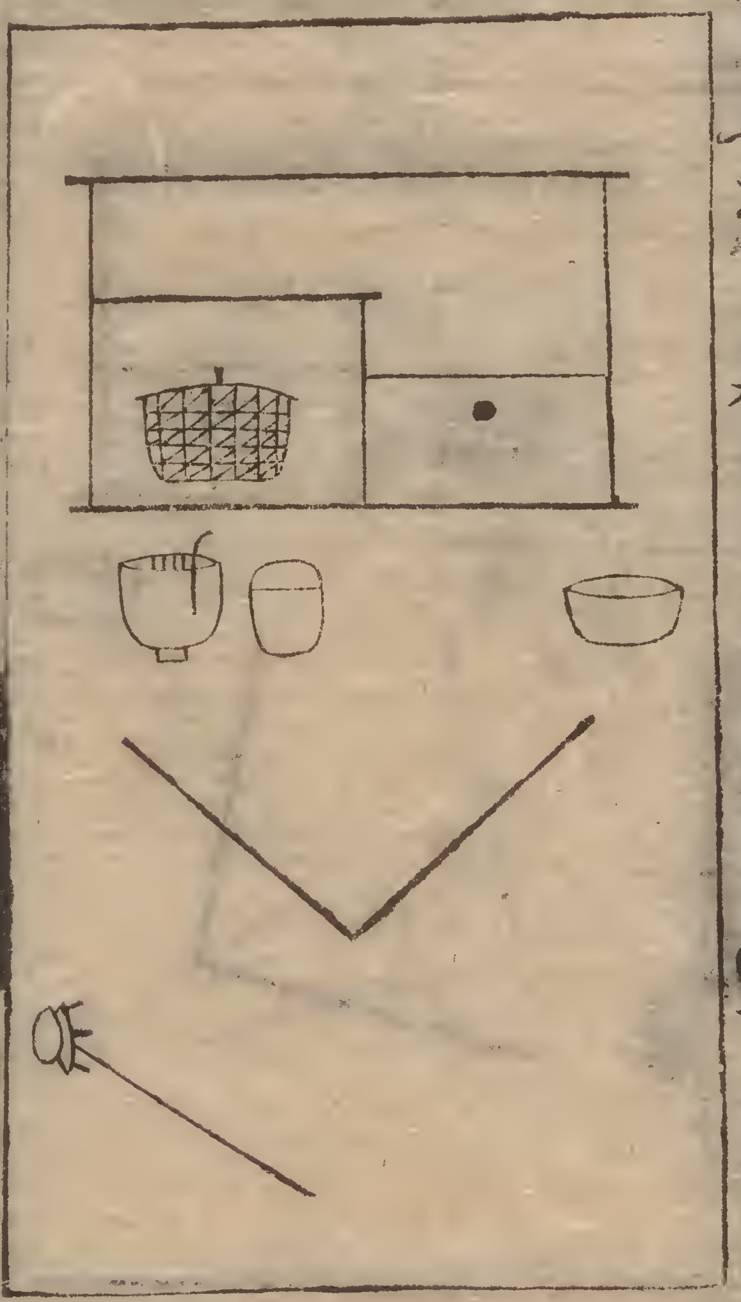
蓋中よ茶入をおく所よ蓋を置(ステ)
かへ置べし茶杓丸巾ひけ茶入を
と水指の中どこ置べし蓋置とを取釜のふたと取茶巾と

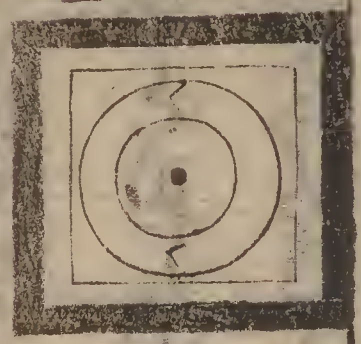
茶碗取上しひやくれ湯をくみ茶入をそゝぎし三ツもゝ
茶巾をぼやとさつめちやわんの内を湯をくゝ巾ひ下よおきて茶巾
をさゝめ蓋へかけ茶杓やくれ出し茶入をしまを入よぎ
出し水指の蓋
取出し湯中杓より
おへ出しきりと置
置べしひやくれ



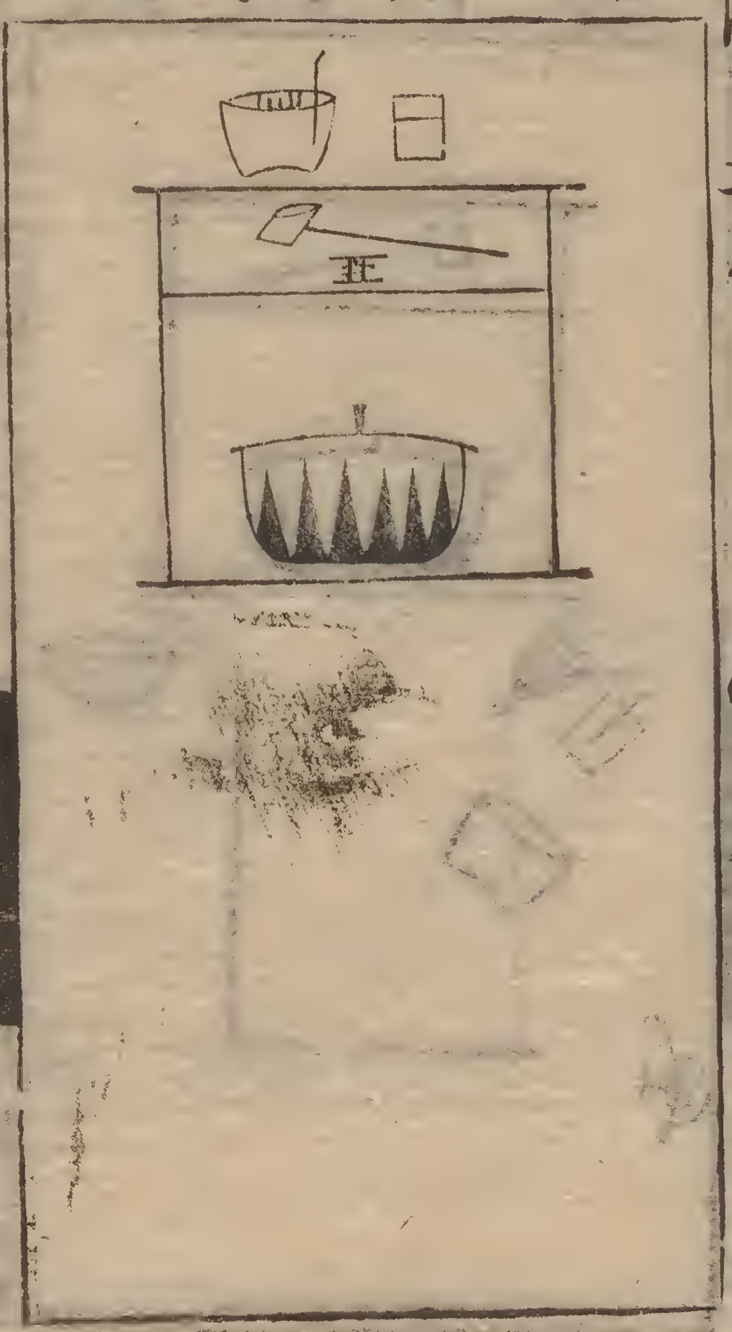
湯を入出とこしむめ所置八茶く
けし茶を取ちがへと如てかざるを
のまゝ下へ出よを行(イツ)めくもしけくめくたりべし

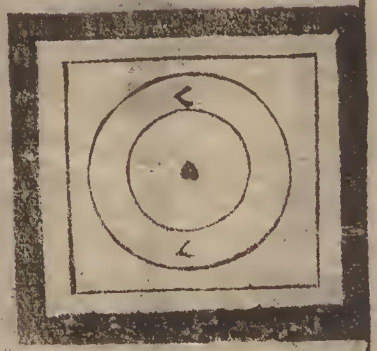
溢(コボス)ハ湯をさましして又湯を入水すゝき入茶先を居と
りじ三つ也て什上湯(ユ)をそて茶巾出へ入茶巾を入茶杓巾ひけ
立鼓し茶碗あ〻へおき居置て水指しをさしてて柄杓さ
蓋置もたゝみ茶碗をもとだ竹
(上水指元立之水指柄杓(ステ)出居へ出置あ
入おくべし当升あるまじ



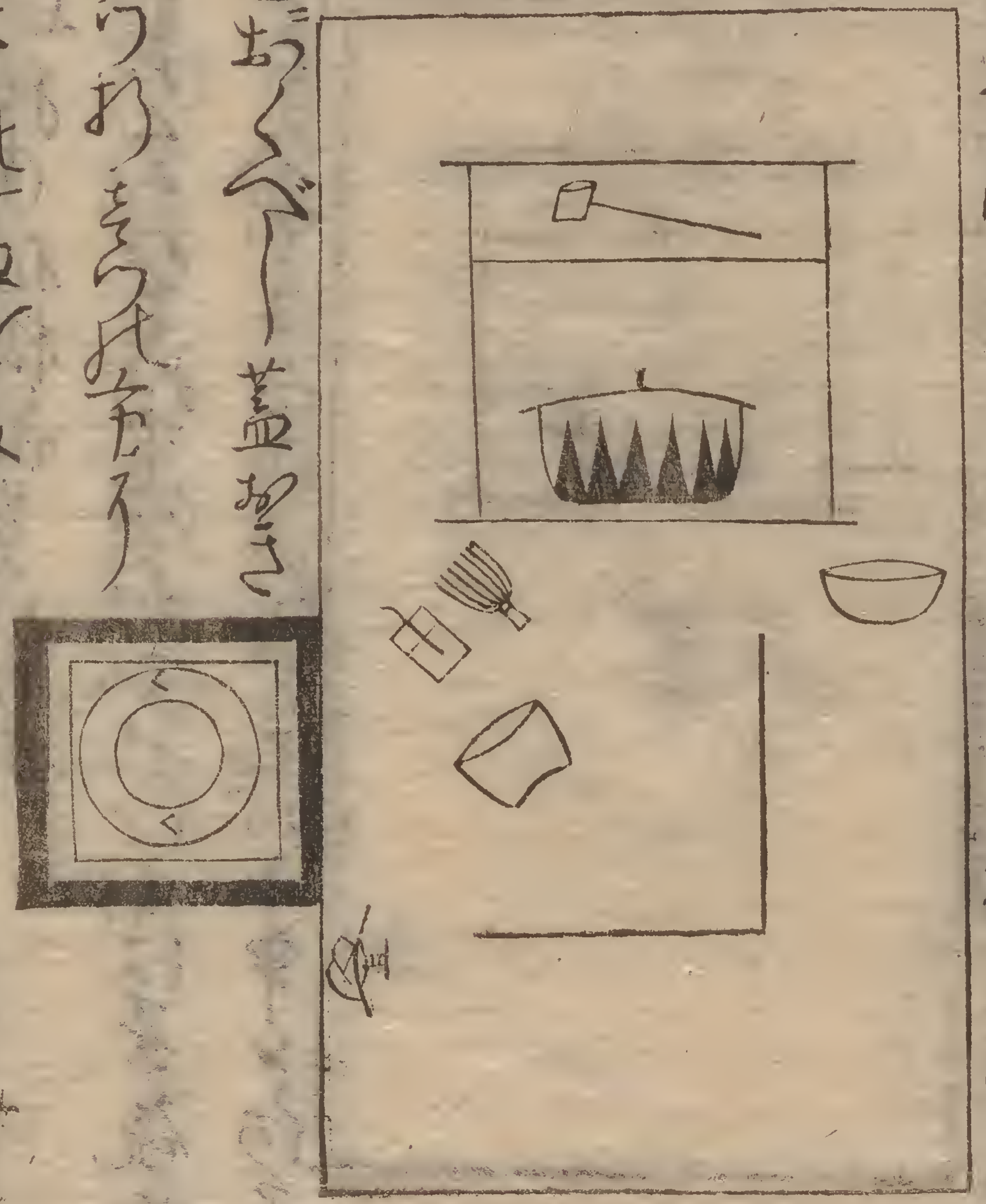


四畳半迄柄杓柄(セイリ)茶巾(フリ)此のあ
一唐(カラ)金(カ)子飯(ハン)銅(ドウ)此水差(サシ)あるぬる此中次(アゲ)上置(フタ)此にはば茶碗茶杓
此てみ茶(カサル)事也何を又飾(タヽミ)ては出候此みおよは飾(カザ)る事を何てよ
まては心次第之同
ことも中にて箱のハ
ひでく蓋置をか
まゝ之水さしを
右此ゐま杓へ拂此上通りにて〆る
ほとけ置所にてしく時に揃いて
左なく茶碗を右へ揃し此縁(フチ)通りて一ッ此又置まあくく

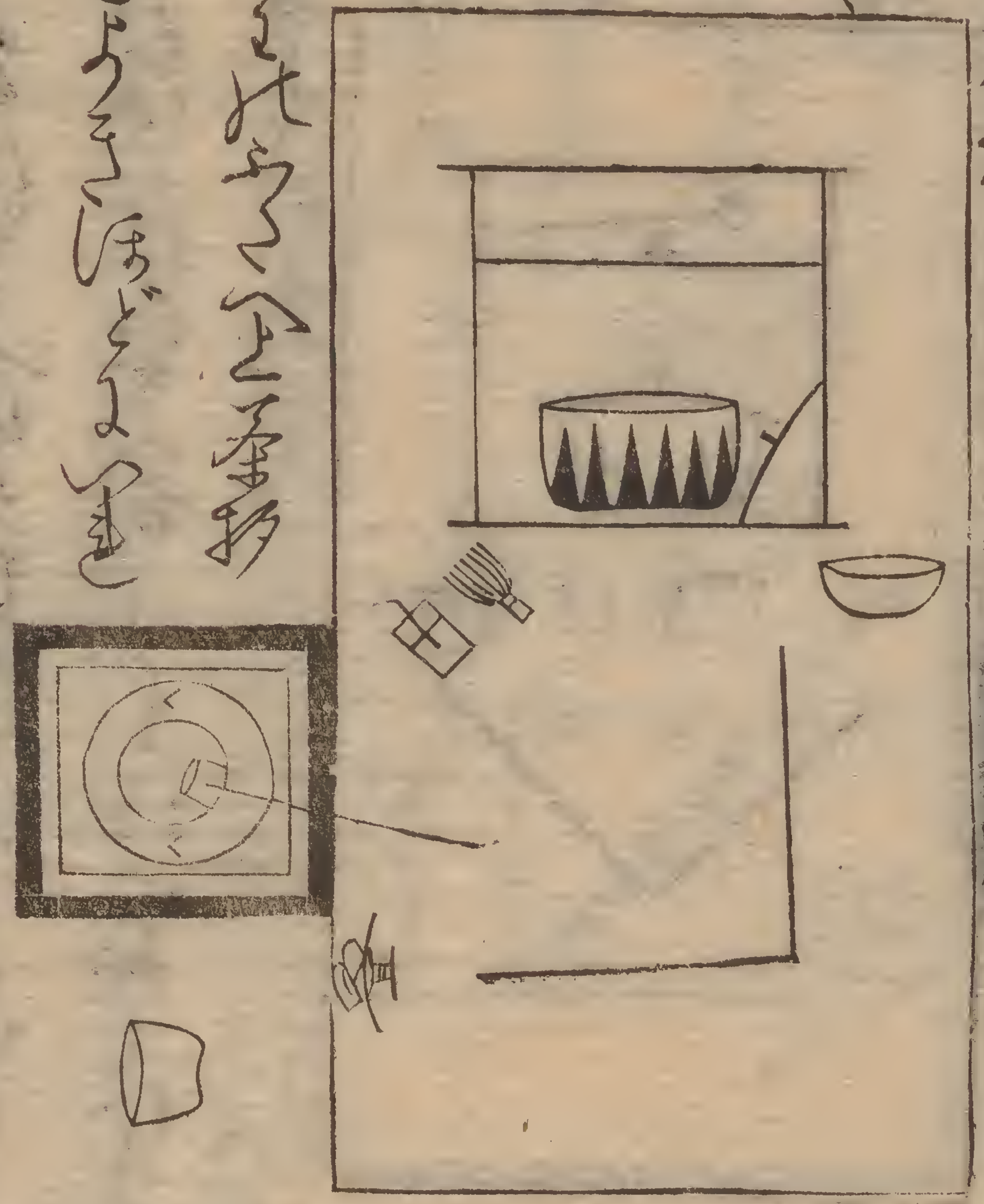




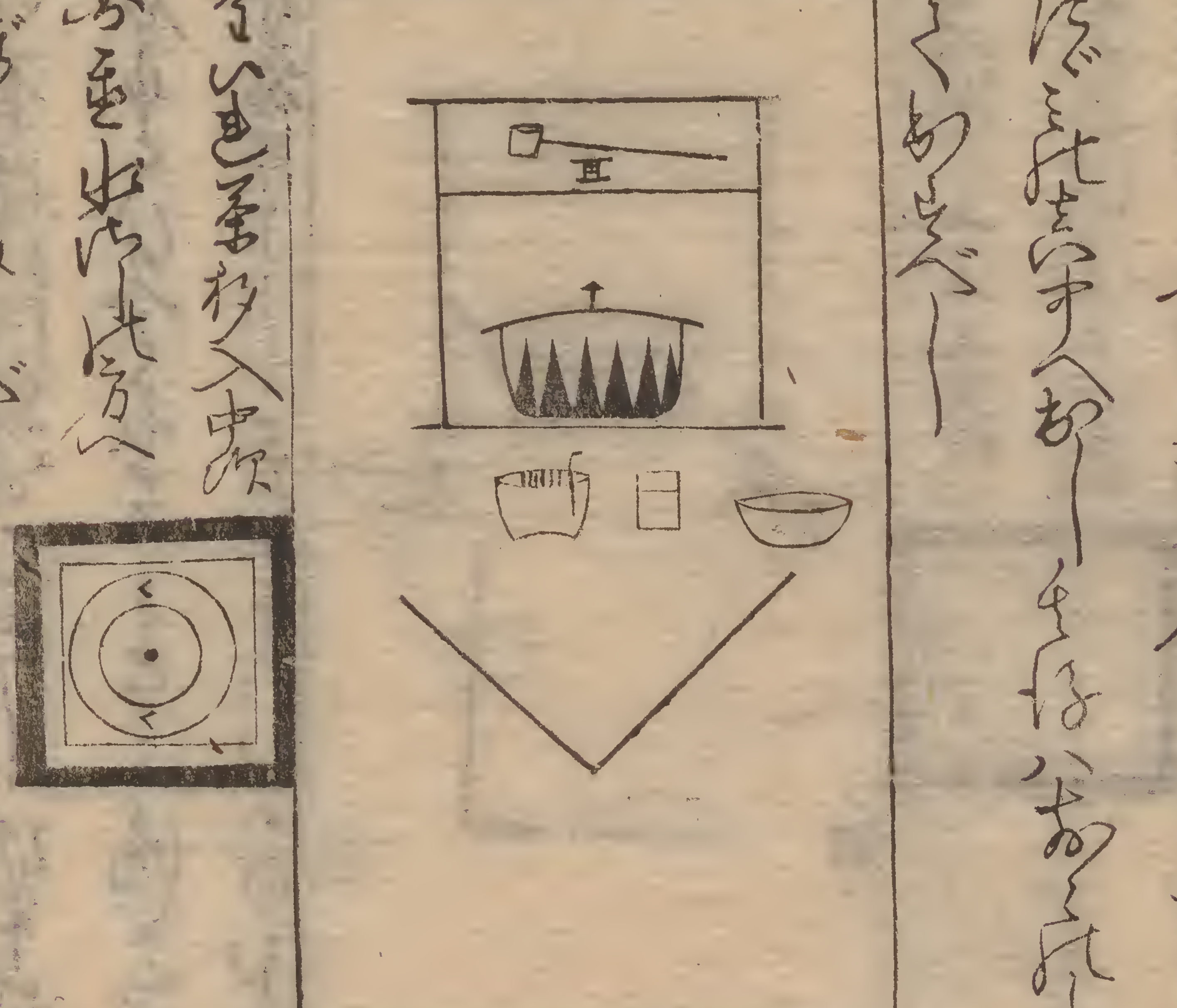
中次を取くおもて帛紗を出し清き中次取上蓋の拂(ハラ)ひ
まハりをくるりと巾ひ水指の擶(ハケ)腹通(ハケ)り上茶杓をおくと
同じく付中次を打くる帛清き出し茶杓巾ひ中次なり
置直して中次よ
茶杓をおく心持
一文字(モンシ)よおくべし
是ら入る時
茶筅を取建盞(ケンサン)におくべし　蓋取さ
それからき又二つ折き茶入
取り帛をかく茶の蓋を取帛ハこしみさきみ茶巾



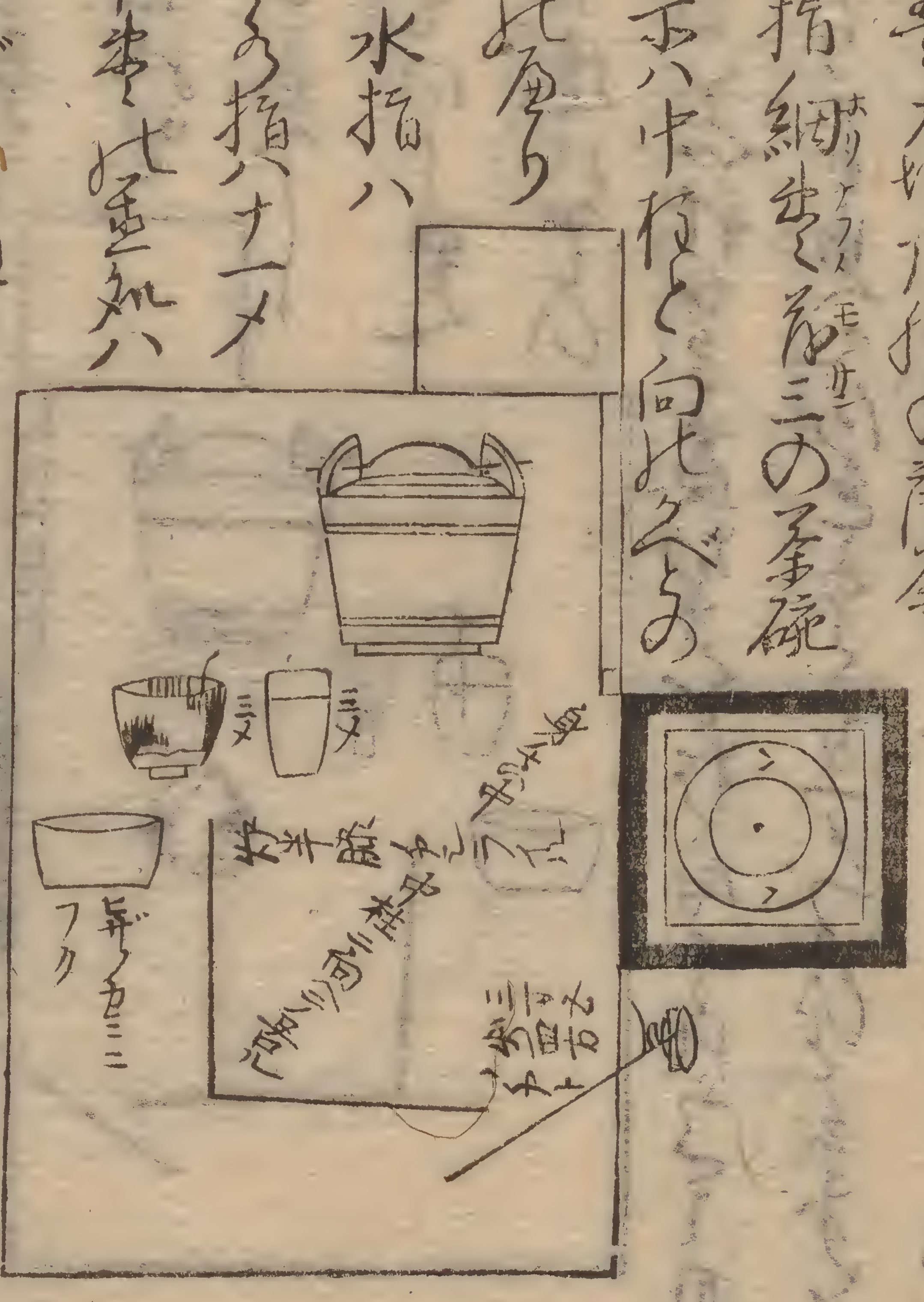
取茶の蓋へあげ茶碗の向(ムカフ)縁を取出(ダ)し茶筅を上に置
三くの茶杓しく右から亜ひくる茶を出し湯をくくひて
八分茶よ付け茶筅取出し二所にして上げあげる茶を出
茶巾を出しまた
たてちやわん取
湯捨(スヽ)ぎ器を此如く
巾ひとまおゑき
茶巾をきめ茶を此所へ上茶杓
取中次取茶をよきほどに置
さして取置へ向しまさし此みさき取つぎそるらと水指



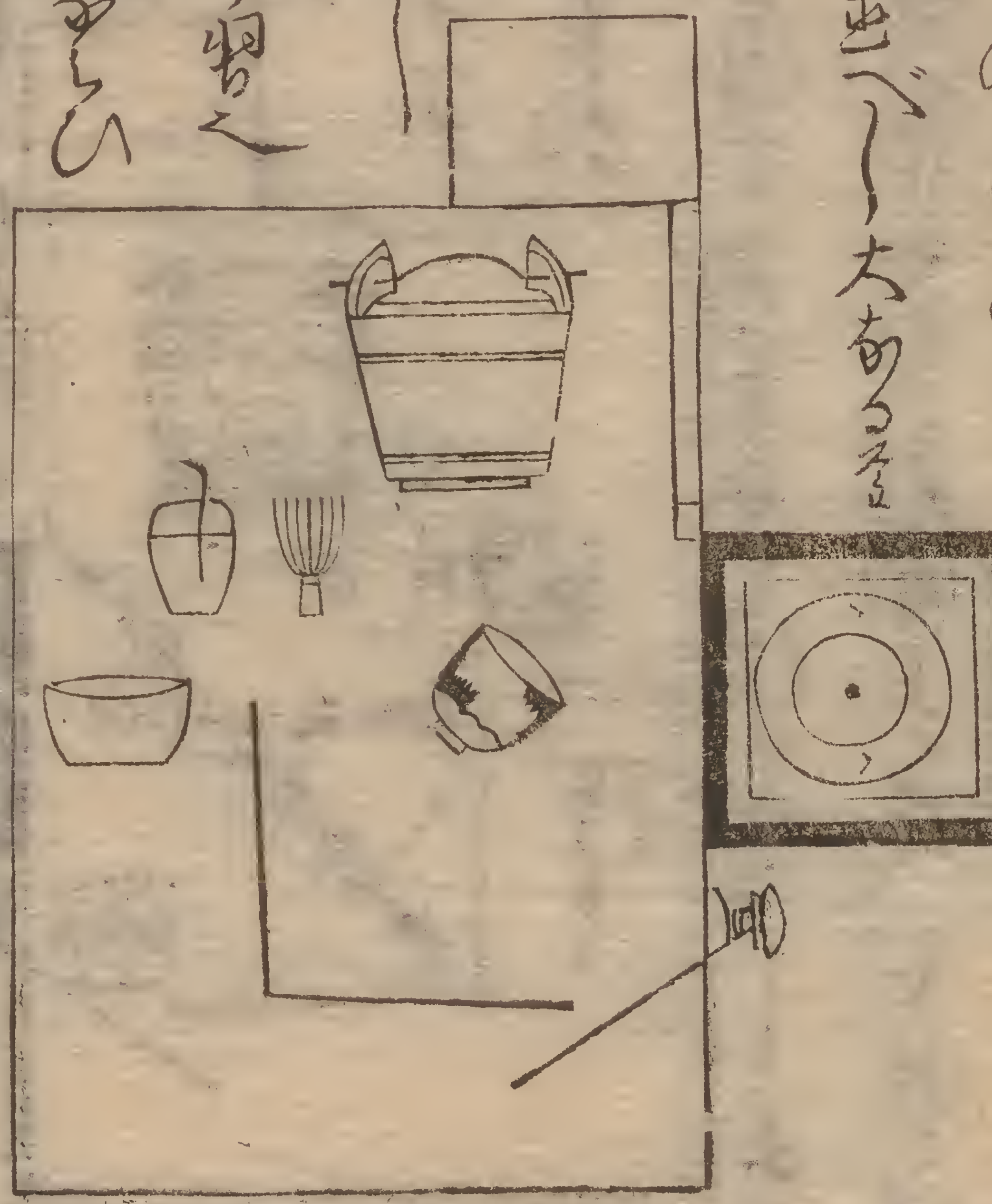
とも添けひて蓋湯を入水かため合ふたかけ茶入を
蓋ゆるべし蝶ぎだ〳〵能き中へおし手はハおしくれてまんの
く待らくもくめくめべし
湯ハ湯をさき
まく又湯入水ま
合くまもめ合
茶なをまき〳〵て
湯抱(スクイ)茶中へ茶きハ白茶杓入中次
まし茶碗を茶色出此方へ
向蓋をべし水こぼし蓋立べし



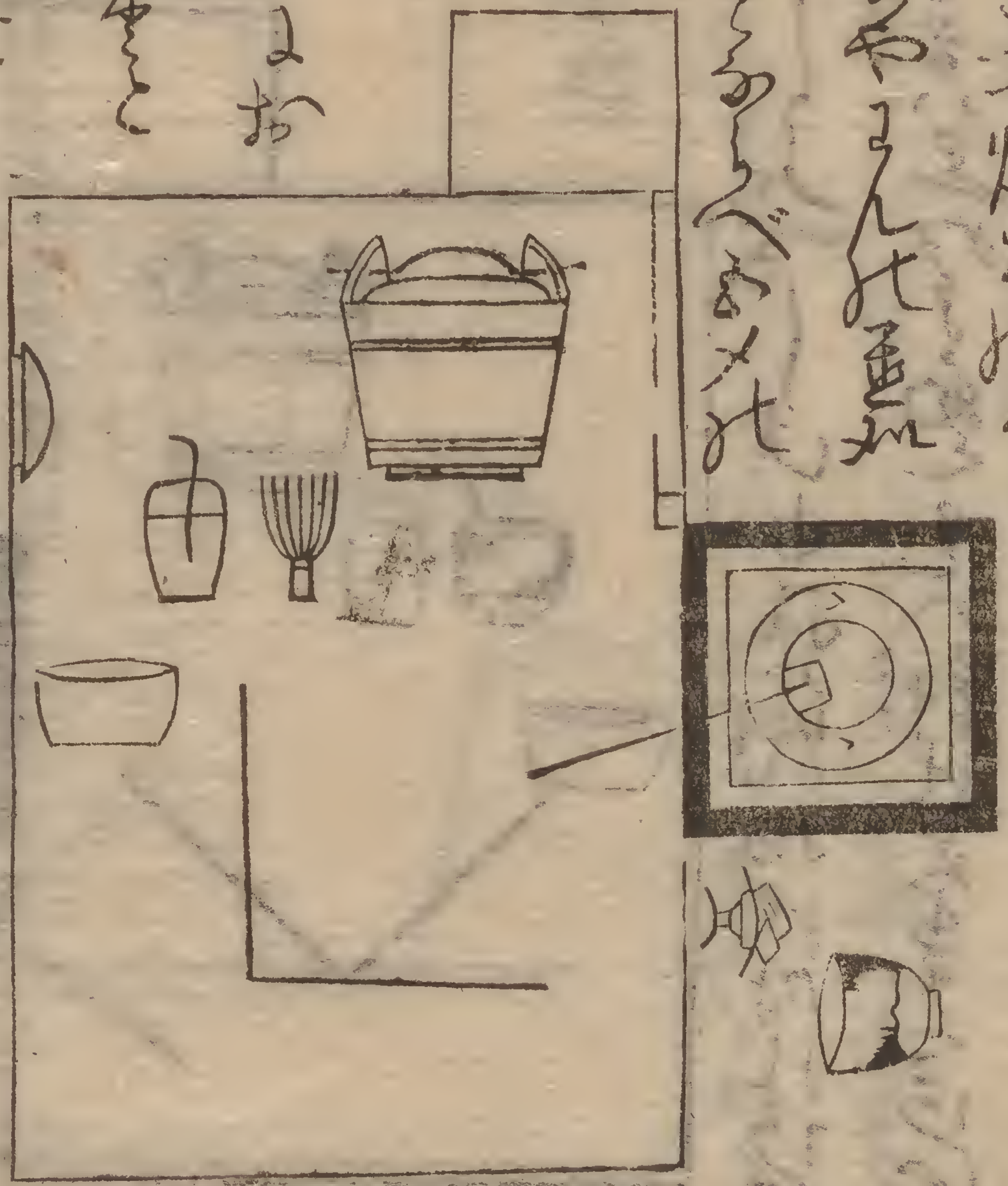
三番ニ大切ハ猪ノ茶
一手桶(テヲケ)此水指細(ホリ)井(モサ)ノ三ノ茶碗
水茶此茶下ハ中指を向此合べしの
茶中ハ中指此屑り
ぎハ大なる水指ハ
ハ大かるの指ハ十メ
よ置べし茶此置処ハ
あさし此茶のだり通りまよ一すあり此け置べし茶碗ハ茶を
の中をまと茶碗の中をまと同通(トヲリ)よ置べし水こぼしよ
ひらく蓋置入指出此蓋置左まで柄杓取右手く取る置



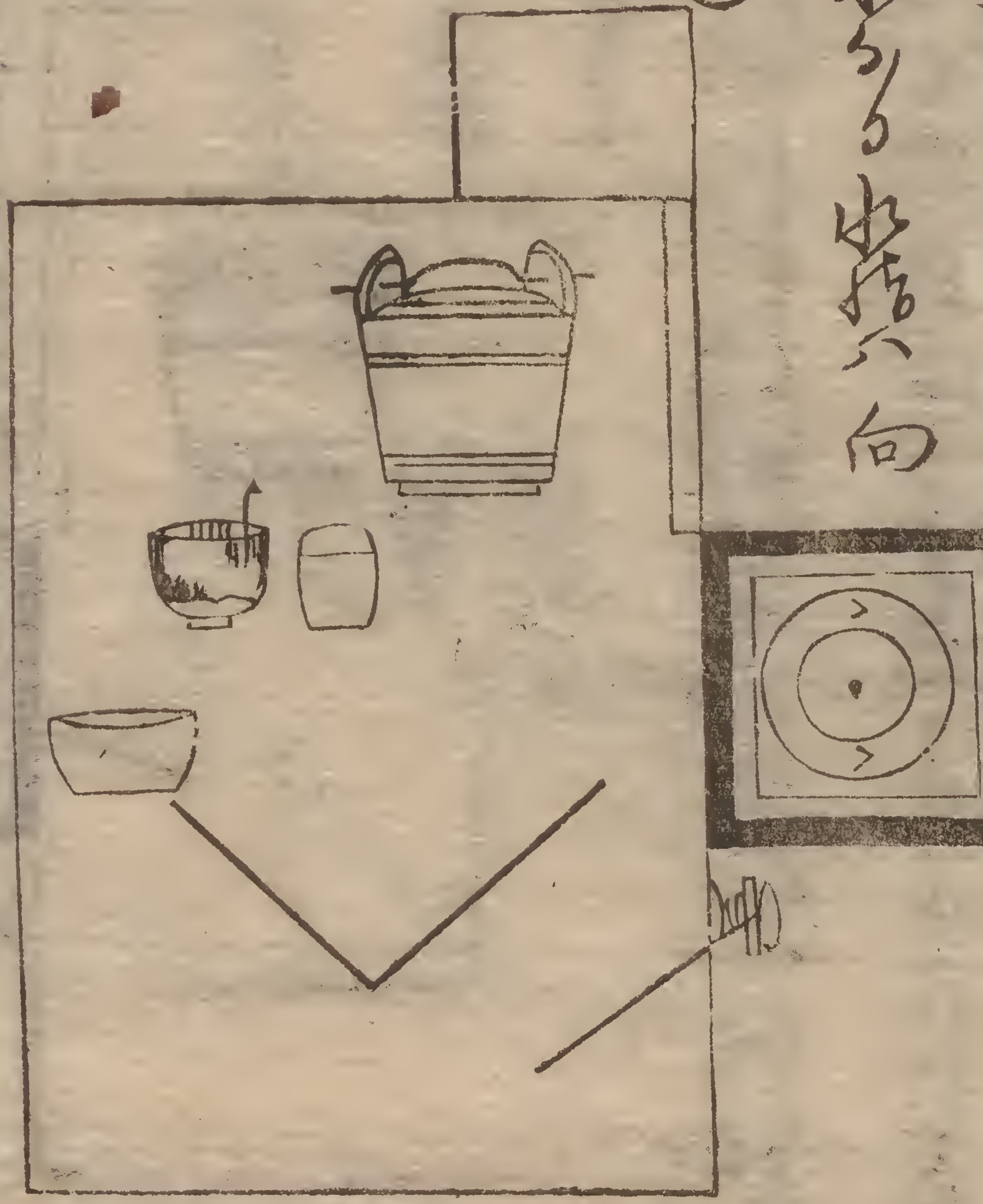
夜ハ常ゝ真(タミ)自在ニ〆かけ炉のかたへ
釜ハ大小ニ依て置へし大なる釜
の蓋ハ蓋を置て
炉ノ縁ニ寄(ヨセ)の前
らける様ニ置べし
小なる蓋も同し習之
けバ時ニ二月進(ゲ)の手ひ
すくと云ハ蓋を釣なる蓋をおきをもつ釜の前ニ置て見を付
大小ともに置申へ之佃(イフ)也ゆくも二メずつとなるとと云事を大きに
きうつ事をひしやくかけいそぎ湯いとる之事ハ口伝を記ス



初(ハジメ)ハ茶碗ハおきて炉の中間ハ上
三〆ハ右の蓋おちやうへ置て
炉の左中置ハ口と右へ置やう〆ハ
右の蓋を中の
置処ハ膝(ヒザ)がしら
通りと中程通りよお
くべし茶入ハ釜と
水指ハ左中置ハすきまと見合へし ひしやくを置かけ
てハひしやくの柄先(エサキ)を炉縁通りに置べし 水指ハ左の蓋ハ夜や
うハ大なる桶(コボシ)ハわしハ蓋を夜て丸くするやうにして

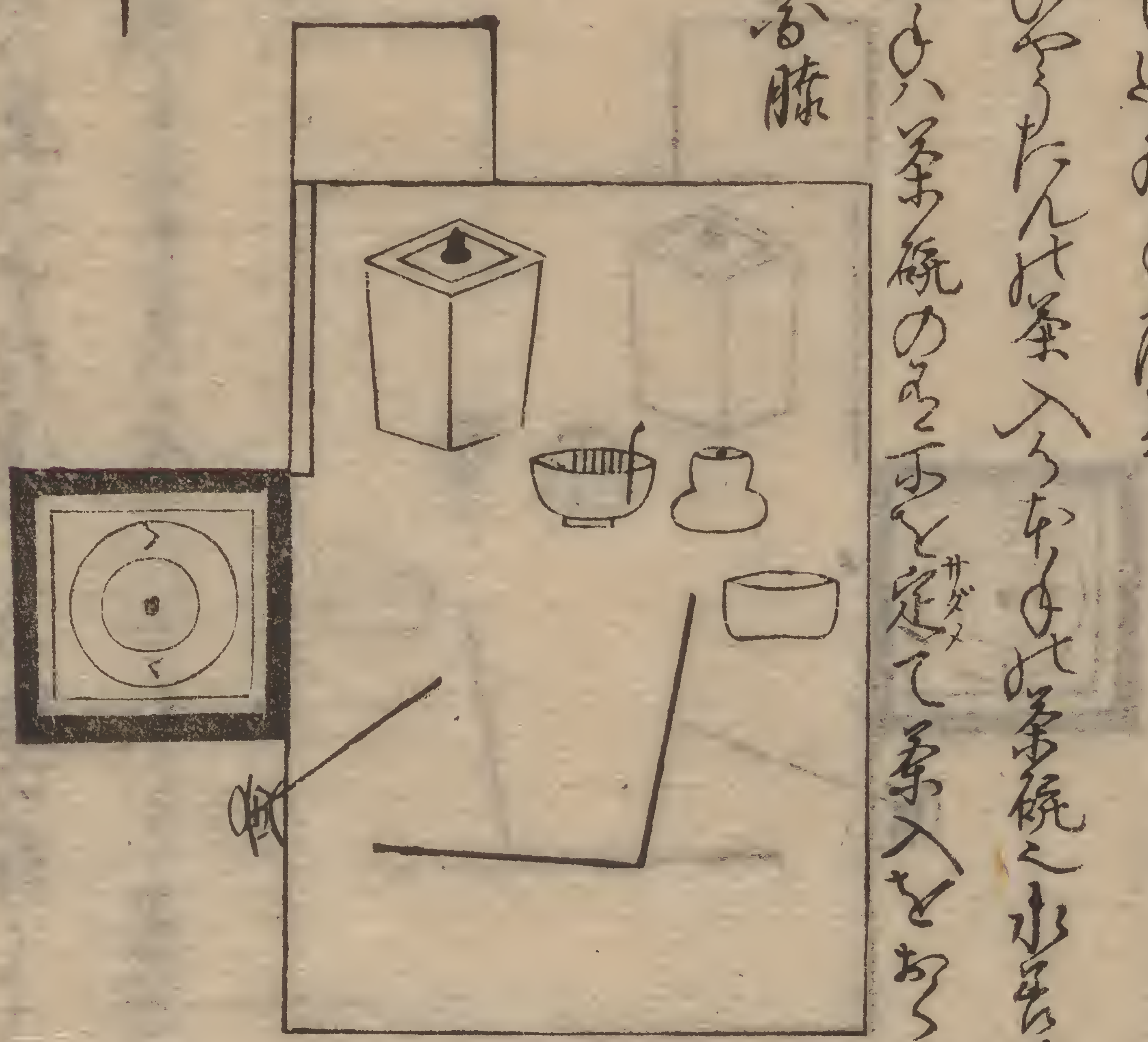


おくべし向は蓋を六七分も向
へおけ置べし又少なる時は向
の蓋を取てかさね
置べし大小とも

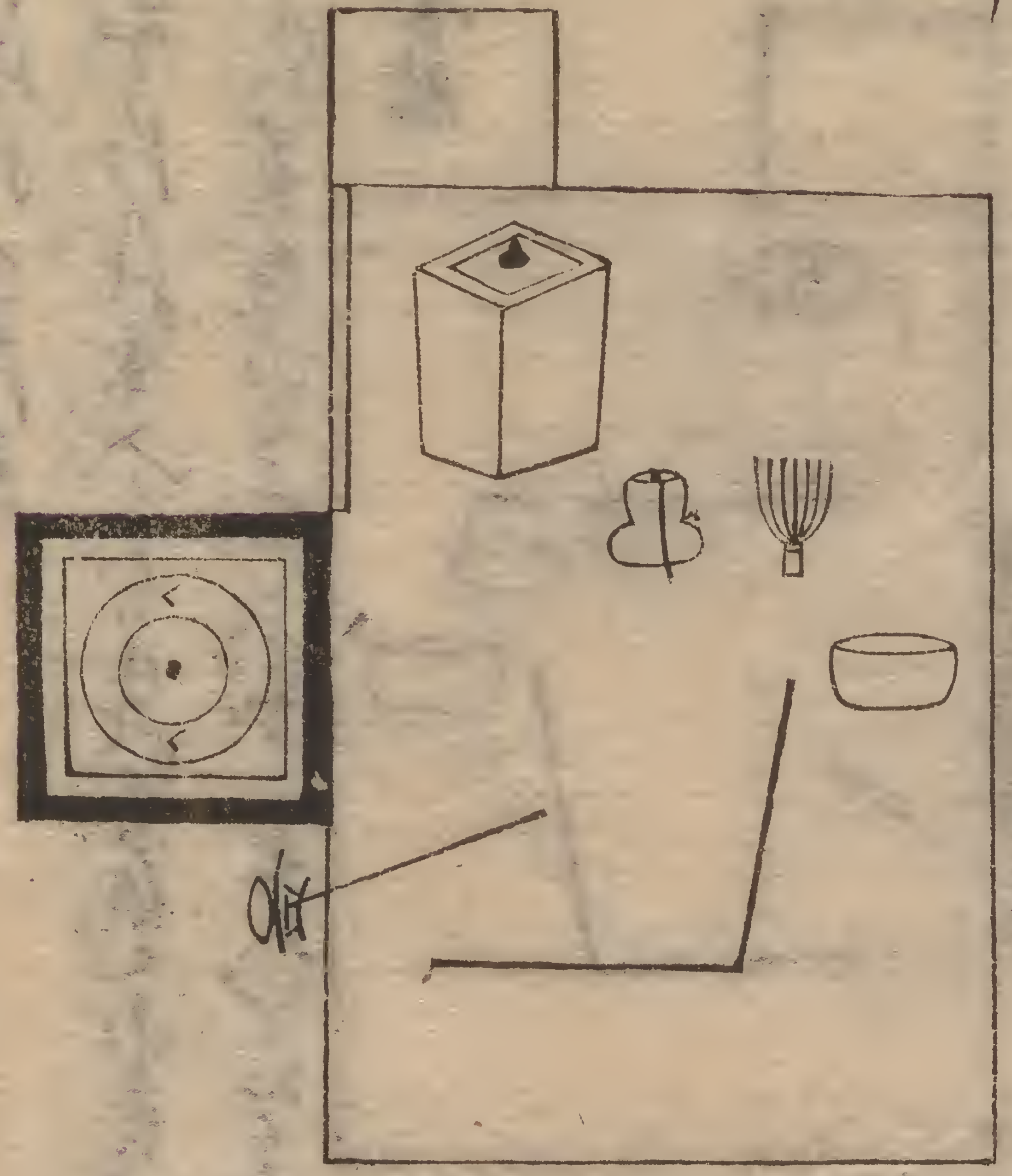


り毎事をあいしらふべし但水指は焼物は付はなしらひ
なる真の棚と云ハ五重の時ハ許は大事之口伝ならひ
ありならひある

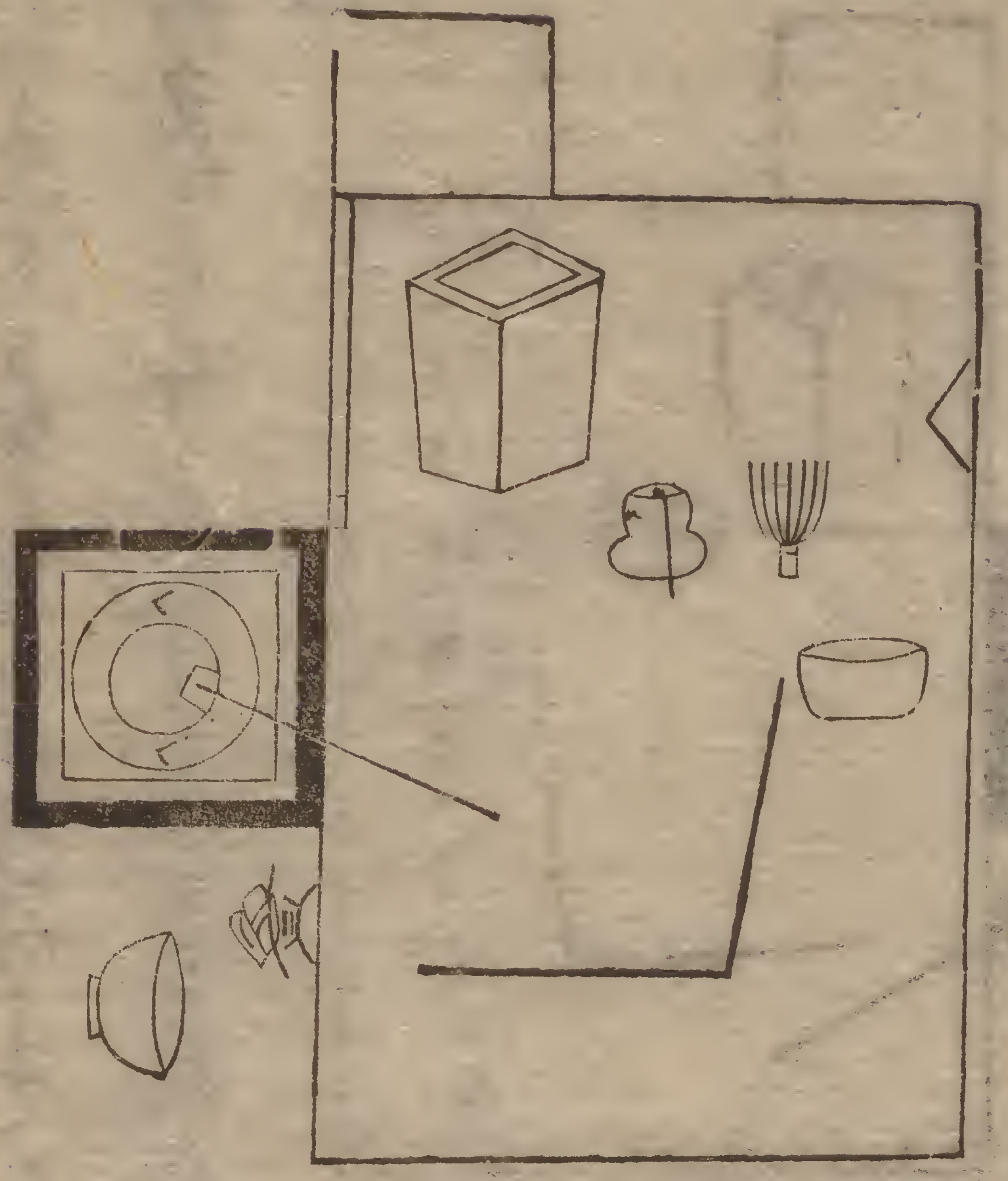
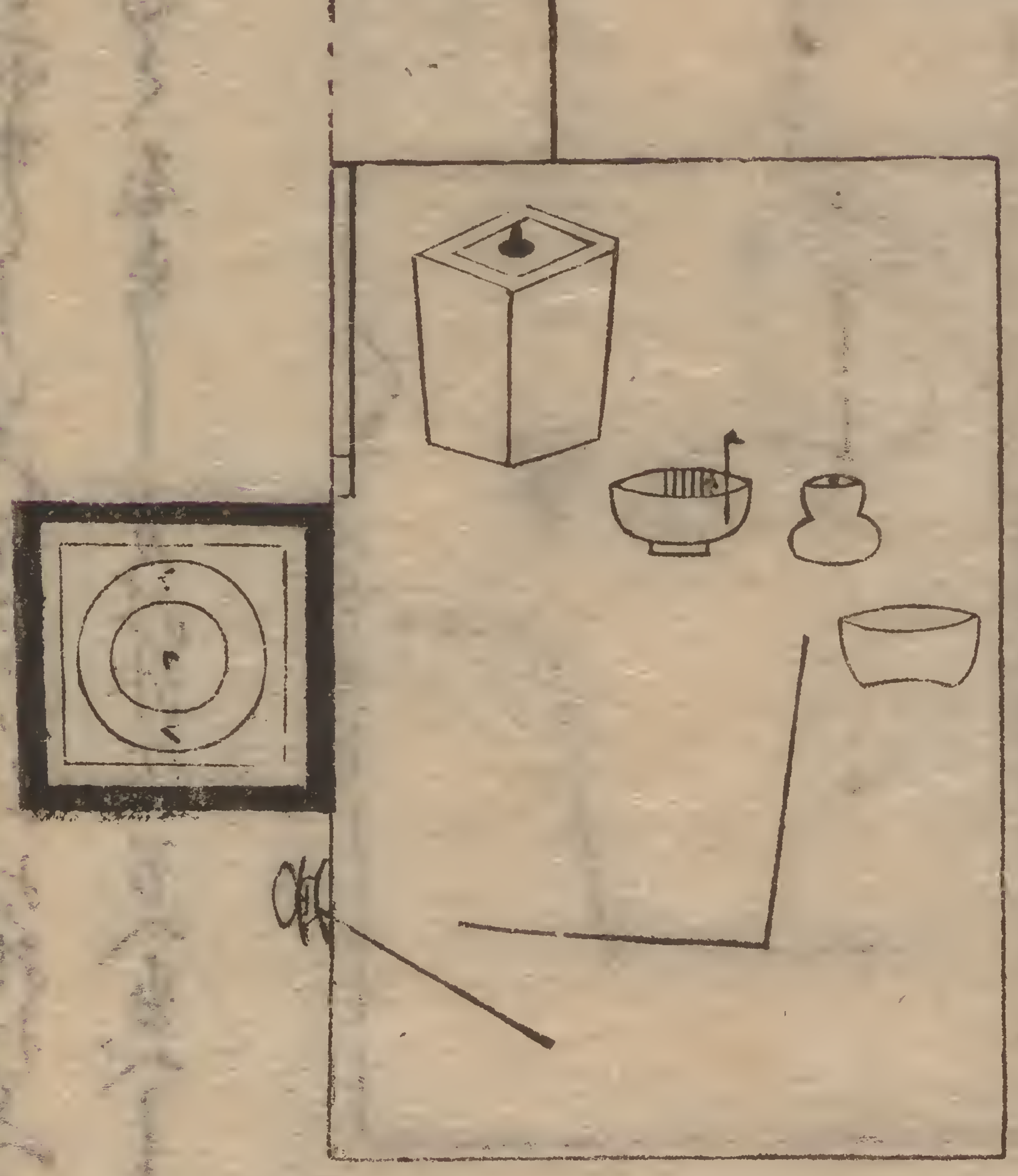
三畳大切逆勝手落葉
一 銅は四角水指ひやうたんは茶入なかには茶碗之水指は置不
嫌勝手は心之は勝手は茶碗の右下と定て茶入をおくべし物
数は物の様勝手膝
此口は前へ付べし



一茶入茶筌の飾ハ茶入中程通り水指の脇ら通りと
並すおしけ置べし茶筌ハ茶入の中と〻と茶筌の中と〻
とならべおくべし



一水指の蓋のたき一ふ中ぐらゐに通り所に置べし水指おくべし
次めひらくらうめく啓き一方外の方へ置べし



右點(タテ)様ある此目あよかゝる事なし　其故ハ器(キ)明して　而祀也
ちとく遂帰に八嶋帰に此ちら久しきぬしきふ之茶杓ひやくホ
と遂おこ之圖